

W e l c o m e t o O S A K A A

ようこそ **OSAKA** へ

パートⅢ

日本語指導実践事例集

— 特別の教育課程による日本語指導の実施について —

大阪府教育委員会

帰国・渡日児童生徒への支援

(大阪府教育委員会)

日本語指導・学習支援

就学・進路支援

小学校入学前

帰国・渡日直後



『ようこそOSAKAへ 帰国・渡日児童生徒の受入マニュアル』

【主な対象】 帰国・渡日まもない児童生徒

【内容】 同児童生徒を受け入れるための学校体制づくりや、受け入れ時の対応のポイントなど。別冊「チェックシート・個人カード」を含む。



『小学校入学準備ガイドブック』

【主な対象】 小学校入学前または帰国・渡日まもない子どもの保護者

【内容】 就学のための手続きや、小学校での学校生活、準備物等についての解説。
日本語を含む8言語に対応。

サバイバル日本語 直後～1カ月



『ようこそOSAKAへ パート2 日本語支援アイデア集』

【主な対象】 帰国・渡日直後から1カ月程度までの児童生徒

【内容】 入学・編入当初に必要な日本語支援のアイデアや事例。



日本語指導教材『こんにちは』(小学校版)

(大阪府教育センター)

【主な対象】 帰国・渡日直後から1年程度までの児童生徒

【内容】 日本語指導のための教材集。複写してそのままプリントとしての活用も可。

Webページ 『帰国・渡日児童生徒 学校生活サポート』

【主な対象】 帰国・渡日まもない子ども及び保護者

【内容】 日本の教育制度、学校生活等に関する解説。
日本語を含む11言語に対応。

日本語基礎 1カ月～



『JSLカリキュラム活用読本』

『AU(アクティビティ・ユニット)一覧』

【主な対象】 日本語でのやりとりがある程度できるが、教科学習の理解に課題がある児童生徒

【内容】 教科指導の中で日本語指導を行うための考え方や指導例。

本事例集



『ようこそOSAKAへ パート3 日本語指導実践事例集』

【主な対象】 日本語でのやりとりがある程度できるが、教科学習の理解に課題がある児童生徒

【内容】 「特別の教育課程」による日本語指導についての解説と、その実践事例。

中学3年生

『進路選択に向けて』

【主な対象】 主に中学3年の帰国・渡日生徒とその保護者

【内容】 高校等に進学するために必要な情報、入学者選抜についての説明等。毎年度更新。日本語を含む11言語に対応。



はじめに

近年、国際化の進展や社会のグローバル化により、帰国・渡日児童生徒が増加しています。それに伴い、日本語指導等の支援を必要とする言語数の増加に加え、居住地域の散在化も進み、これまで帰国・渡日児童生徒の受入れ経験がなかった学校に、海外より直接編入する事例も増えています。

大阪府教育委員会ではこれまで、帰国・渡日児童生徒が安心して日本での学校生活を送れるよう、また、将来に希望を持って進路選択ができるように、Webページを活用した多言語による学校生活情報の提供をはじめ、府内7地区において多言語進路ガイダンスを開催するなどの支援を行ってまいりました。

平成26年度、国が学校教育法施行規則を一部改正し、帰国・渡日児童生徒へ「特別の教育課程」を編成して日本語指導が行えるようになりました。このことを受け、今回、大阪府内の小中学校においても、さらに一人ひとりの状況に応じたきめ細かな日本語指導が実施されるよう、事例集を作成することにいたしました。

本事例集は、「特別の教育課程」による日本語指導を始めるにあたって、その基本的な考え方、年間指導計画の作成、実際の指導やその評価について、日本語指導の経験の少ない教員にもヒントとなる事例等を収めました。実際に授業を進める際にそれぞれの児童生徒の状況に合わせて、どのようなねらいを持ち、どのような支援をするかを考えていくことができるような内容構成にしております。

帰国・渡日児童生徒の受入れ段階での「帰国・渡日児童生徒の受入れマニュアル」（平成22年3月）、初期の日本語指導に対応する「日本語指導アイデア集」（平成23年3月）に加え、本事例集もご活用いただくことで、日本語指導が必要な児童生徒に対しての支援がより充実することを願っています。

大阪府教育委員会市町村教育室小中学校課

目次

はじめに	1
1. 「特別の教育課程」について	3
2. 「特別の教育課程」の実施にあたって	4
3. 『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント (DLA)』の活用と実践	13
4. 教材・支援方法の工夫例	17
5. FAQ	20
6. 外国人児童生徒等の支援のために	22
7. 参考資料・教材の紹介	24
8. 実践事例	25

1	小学1年【国語】	ひらがな ことばあつめ	28
2	小学2年【算数】	水のかさをはかろう	30
3	小学2年【国語】	あいうえお作文をつくろう	32
4	小学3年【国語】	ありの行列	34
5	小学3年【国語】	読書活動	36
6	小学4年【社会】	災害からまちを守るために	38
7	小学4年【算数】	小数のたし算とひき算	40
8	小学4年【算数】	がい数	42
9	小学5年【社会】	これからの食料生産	44
10	小学5年【国語】	世界で一番やかましい音	46
11	小学6年【国語】	海の命	48
12	小学6年【国語】	形が変わる言葉に気をつけよう	50
13	小学6年【国語】	新聞を読む	52
14	中学2年【数学】	1次関数	54
15	中学2年【国語】	言葉の力	56
16	中学2年【国語】	漢字の学習	58
17	中学3年【国語】	故郷	60
18	中学3年【国語】	月の起源を探る	62
.....			
19	小学3年【特活】	遠足に行こう	64

1

「特別の教育課程」について

概要

「特別の教育課程」による日本語指導とは、各校種の教員免許状を有する教員が、「日本語で日常会話が十分にできない」及び「学年相当の学習言語能力が不足し、学習活動への取組みに支障が生じている」児童生徒に対して、在籍学級で行われる教育課程によらず、個々の日本語能力に応じた指導を行うことです。

年間10単位時間から280単位時間までを標準とします。

指導を行う場所は、在籍学級とは別の教室を想定しています。在籍校に指導者がいない場合は、他校の指導者が巡回体制を組んで指導したり、当該児童生徒が他の学校で授業を受けたりすることも認められます。

実施にあたっては、学校長の責任のもと指導計画を作成し、学校設置者に提出します。また、年度の終わりには指導の実績等を学校設置者に提出します。

「特別の教育課程」による日本語指導を実施することで、次のような効果が期待できます。

- ・児童生徒一人ひとりの実態を踏まえた、きめ細かな日本語指導が可能となる。
- ・日本語指導に携わる者の意識が高まるとともに、指導力が向上する。
- ・学校全体として日本語指導に取り組む体制がより充実する。

- ・ 児童生徒が、各教科やその他の教育活動に、日本語で参加できる能力が向上する。
- ・ 一人ひとりが主体的に学び、希望する進路を選択できるようになる。

日本語能力の把握について（『DLA』の活用）

個々の児童生徒に適したきめ細かな日本語指導を実施するためには、その児童生徒の日本語能力を把握する必要があります。

受入れ実績の豊富な学校でも、これまでの指導事例や経験をもってしても、日本語指導の担当者が児童生徒の日本語能力を正しく把握することは、容易ではありません。まして、これまで受入れ実績がない学校では、それがむずかしい場合があります。

そのため、文部科学省は平成26年、日本語能力を把握するツールの一つとして、『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント（DLA）』を発行し、同年、日本語指導が必要な児童生徒が在籍する学校に配付しました。この『DLA』は、教育現場におけるニーズ調査や実証を踏まえ、全国的にどの学校でも使用可能な測定方法として開発されています。

詳しくは、「3. 『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント（DLA）』の活用と実践」（13～16ページ）を参照してください。

2

「特別の教育課程」の実施にあたって

対象とする児童生徒について

「特別の教育課程」を編成するか否かの判断は、学校長の責任のもとで行います。その際、主たる指導者を始めとする複数の教員で、児童生徒の実態を多面的な観点から把握します。『DLA』等の日本語測定方法等により測定した結果を参考とすることも有用です。

指導者について

指導者は、教員免許を有する教員（非常勤講師等を含む）とし、日本語指導を受ける児童生徒の指導の中心となって、児童生徒の実態の把握、指導計画の作成、日本語指導及び学習評価を行います。

指導計画の作成等について

「特別の教育課程」の実施にあたっては、児童生徒が目標をもって意欲的に学習に取り組めるよう、児童生徒本人やその保護者に説明を行い、理解を得ます。

そして、児童生徒の在籍校において、学校長の責任のもと指導計画を作成し、学校設置者（市町村立学校においては市町村教育委員会）に提出します。

指導計画の作成にあたっては、まず、「特別の教育課程」を実施しようとする時点での、対象児童生徒の日本語能力（「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能別）を把握します。その際には、児童生徒一人ひとりの日本語の習得に影響を与えている諸要因にも着目します。そして、その把握をもとに、指導計画（指導時間、指導内容等）を作成します。（指導計画については、9～12ページに様式例を示しています。）

日々の日本語指導は、この指導計画に基づき行いますが、一定の期間ごと（月、学期、年度など）に、どの程度日本語能力がついたかを把握します。各教科等の学習活動に日本語で参加するための能力がどの程度向上したのか、また、どのような課題があるのか等について明らかにし、必要な場合は指導計画の見直しを行います。

年度の終わりには、指導の実績とともに、その時点での日本語能力などを学校設置者に提出します。

指導内容について

当該児童生徒の日本語能力を高める指導だけでなく、日本語能力に応じて行う各教科等の指導も、「特別の教育課程」として実施することができます。その場合の各教科等の指導内容は、当該児童生徒の在籍する学年の教育課程に必ずしもとられることなく、当該児童生徒の学習到達度に応じた適切な内容とします。また、その際、保護者の希望や児童生徒の将来等についても踏まえ、指導内容についてよく相談の上、保護者の理解と協力を得るよう努めることが大切です。



指導の形態及び場所について

指導の形態としては、大きく次の3つが考えられます。

- a) 取り出しによる個別指導
- b) 取り出しによるグループ指導
- c) 学級への（教員の）入り込み指導

a～cいずれの場合も、必ず教員が指導に関わる必要があります。例えば、通訳者や指導補助者だけによる個別指導は「特別の教育課程」による日本語指導にはなりません。

指導の場所は、当該児童生徒の在籍する学校を原則としますが、当該の学校において指導者（教員）の確保が困難である場合等は、大きく次の2つの方法が考えられます。



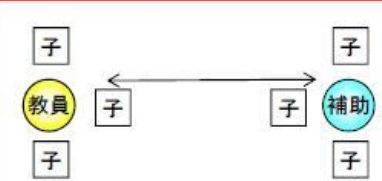
- a) 他校の教員が当該の学校を訪問し、当該児童生徒の日本語指導を行う
- b) 当該児童生徒が、他校（指導者のいる学校）に出向き指導を受ける

他校で日本語指導を行う際は、次の点に留意します。

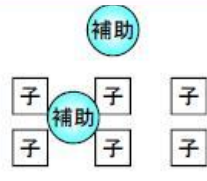

- 1) 当該児童生徒が在籍する学校の設置者の定めに従い、児童生徒が在籍する学校と日本語指導を行う学校が連携しながら、適切に行います。また、当該児童生徒の「特別の教育課程」は、児童生徒が在籍する学校が責任をもって編成します。

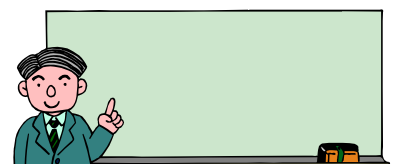
指導形態

「特別の教育課程」として認める形態

 <p>【パターンA】 ・教員が全体の指導を行う。 ・学校が作成した指導計画をもとに、指導補助者が、個別に学習内容について助言したり、必要に応じて母語による支援を行ったりする。</p>	 <p>【パターンB】 ・学校が作成した指導計画をもとに、同じ学習内容を指導しているが、1時間の授業の一部において、児童生徒の日本語能力等に応じてグループに分け、教員と指導補助者が分担して指導を行う。</p>	 <p>【パターンC】 ・児童生徒の日本語能力等に応じてグループに分け、異なる学習内容を教員と指導補助者が交替で指導を行う。 ・指導補助者は学校が作成した指導計画をもとに、教員が事前に準備した教材を使用するなどして指導を行い、教員は指導内容に責任を持つこととする。</p>
--	---	--

「特別の教育課程」として認められない形態 (※課外なら実施可能)

 <p>【パターンD】 ・指導補助者が全体の指導を行う。 ・また別の指導補助者が、個別に学習内容について助言したり、必要に応じて母語による支援を行ったりする。</p>	 <p>【パターンE】 ・児童生徒の日本語能力等に応じてグループに分け、指導補助者が分担して指導を行う。</p>
---	---



2) 他の学校の児童生徒に対して日本語指導を行う学校は、自校の児童生徒と同様に責任をもって指導し、日本語指導の記録を作成、管理し、当該児童生徒が在籍する学校に対して、記録の写しを通知します。



授業時間、頻度について

年間 10 単位時間から 280 単位時間を標準とします。年間 280 単位時間の場合は週平均 8 単位時間となりますが、年間を通じて平準化する必要はなく、渡日もない時期やテスト前などに集中して指導するなど、状況に合わせて行うことも考えられます。



指導体制、時間割編成の工夫について

日本語指導が必要な児童生徒が一定数在籍する学校では、個別指導に加え、日本語能力等が同程度の児童生徒数人を同時に取り出すグループ指導を行うことで、効果的な日本語指導につながります。その際、例えば、当該児童生徒が同学年の場合は同じクラスにする、あるいは、在籍する学年・クラスが異なる場合でも、在籍学級の時間割を編成する際に、ある教科の時間をあわせるなどすれば、同時に取り出し指導ができるようになります。

また、実際の指導にあたっては、担任や日本語指導担当だけでなく、小学校では専科教員が、中学校では各教科の教員が担当できるように、指導体制を組むことも考えられます。



評価について

指導計画において設定した指導目標に基づき、評価を行います。

評価を行うにあたっては、当該児童生徒の担任や各教科を担当する教員が情報を共有しておくことが大切です。当該児童生徒の日本語の習得に影響を与えている諸要因にも着目しつつ、積極的に学習活動に参加しようとする意欲や態度についても、ていねいな評価を行う必要があります。

また、当該児童生徒の評価については、次のような点に留意して行います。

- 1 児童生徒が達成したことが何であることを児童生徒自身に明確に伝える
- 2 評価された理由を理解させる
- 3 達成感をもたせ、児童生徒の自己肯定感や自己効力感を高める
- 4 何ができて何ができていないのかを知らせ、自分でめあてや見通しをもって学習に参加できるようにする。
- 5 ポートフォリオなどを活用し、記録を残す

通知表（通信簿）には、指導の過程や成果、児童生徒一人ひとりの可能性などを適切に示し、日本語指導に関する今後の指導方針を学校と保護者との間で共有して、その後の当該児童生徒の支援に役立てることが重要です。

なお、保護者も日本語の理解がむずかしい場合があるので、わかりやすく伝え理解を得られるよう、記載内容や方法、様式等について工夫を図ることが大切です。

指導要録に記載する評価については、「特別の教育課程」による日本語指導を行ったことが記録として残るよう、また、当該児童生徒の不利益にならないように工夫することが大切です。

記載方法や記載する内容については市町村ごとに様式などが示されているので、それに従います。

【参考】

記載する内容（例）

授業時数、指導期間、指導内容、指導による結果（評価）など

記載方法（例）

評価をカッコ書きする

各教科の観点の欄に個別に設定した観点による観点別評価を記入する

備考欄に文章表記する など

なお、高等学校入学者選抜の調査書に記載する評定については、入学者選抜の実施要項に従います。

「特別の教育課程」による日本語指導を実施しても、同じ教材等を使うなどして、中学校学習指導要領に示す当該学年の目標を設定するのであれば、目標到達までの手法が違って、在籍学級の他の生徒同様の評価が可能となることから、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）に基づく評定を5段階で表記することはできますが、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）になじまないと中学校長が判断した場合は、評定を無記載とします。

【参考】

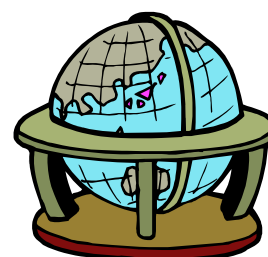
平成28年度大阪府公立高等学校入学者選抜実施要項より

「各教科の学習の記録」欄

第3学年における必修の全教科について、中学校学習指導要領に示す当該学年の目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）に基づく評定を5、4、3、2、1の5段階の表示で記入する。

中学校3年生の中学校学習指導要領に示す目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）になじまないと中学校長が判断した場合は、評定を無記載とする。評定を無記載とした者については記入欄全体に斜線を引く、又は全教科評定欄に「-」を記入する。また、一部の教科の評定を無記載とした者については、当該教科の評定欄に「-」を記入する。

（注）第1学年、第2学年については、「第3学年」「中学3年生」の箇所を、それぞれ読み替えることになる。



個別の指導計画 様式（例）

（学校内で作成する指導計画 様式例）

個別の指導計画（参考様式）

様式1（児童生徒に関する記録）

フリガナ				国籍等					
児童生徒氏名				生年月日					
住所				連絡先					
入国年月日				学校受入年月日					
家族構成	続柄	氏名		国籍	家庭内言語	日本語理解の状況・備考			
家庭連絡		<input type="checkbox"/> 家庭訪問・懇談会等に通訳が必要		<input type="checkbox"/> 翻訳文書が必要		<input type="checkbox"/> 通訳・翻訳文書不要			
就学状況		特記事項							
学年	年齢	就学前の状況、本国の学校での就学状況・学習歴など							
就学前	0～5								
小1	6～								
小2	7～								
小3	8～								
小4	9～								
小5	10～								
小6	11～								
中1	12～								
中2	13～								
中3	14～								
その他									
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学級担任									
指導者(指導補助者)									
取り出し指導 累積時間数									

(学校内で作成する指導計画 様式記入例)

個別の指導計画 (参考様式)

様式1 (児童生徒に関する記録)

フリガナ		国籍等		中国					
児童生徒氏名		生年月日							
住所		連絡先							
入国年月日		学校受入年月日							
家族構成	続柄	氏名	国籍	家庭内言語	日本語理解の状況・備考				
	祖母	## ###	日本	中国語	日常会話が可能				
	父	# ##	中国	中国語	通訳が必要				
	母	# ##	中国	中国語	通訳が必要				
	妹	# ##	中国	日本語・中国語	日常会話が可能				
家庭連絡		<input checked="" type="checkbox"/> 家庭訪問・懇談会等に通訳が必要		<input checked="" type="checkbox"/> 翻訳文書が必要 <input type="checkbox"/> 通訳・翻訳文書不要					
就学状況		特記事項							
学年	年齢	就学前の状況、本国の学校での就学状況・学習歴など							
就学前	0～5	出生地 大阪 生後8カ月から中国黒竜江省方正県の祖父のもとで生活 幼稚園経験なし							
小1	6～	7月に来日、〇〇市立〇〇小学校編入 特別の教育課程による日本語指導実施							
小2	7～	〇〇市立〇〇小学校							
小3	8～	12月に中国に帰国 中国××小学校							
小4	9～	中国××小学校							
小5	10～	中国××小学校							
小6	11～	5月に来日 〇〇市立〇〇小学校編入、卒業 特別の教育課程による日本語指導実施							
中1	12～	〇〇市立〇〇中学校							
中2	13～	〇〇市立〇〇中学校							
中3	14～								
その他									
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学級担任									
指導者(指導補助者)									
取り出し指導 累積時間数	172	140	65	159			100	84	

(学校内で作成する指導計画 様式例)

個別の指導計画 (参考様式)

様式2 (指導に関する記録)

フリガナ													指導時間	作成日
児童生徒氏名													週 () 単位時間	平成 年 月 日
指導者														更新日
(指導補助者)														平成 年 月 日
日本語状況													日本語能力測定	
													DLA(JSL 対話型アセスメント)	
													【話す】	
													【読む】	
													【書く】	
													【聴く】	
		その他												
指導目標														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
取り出し 指導時数														
日本語指導 プログラム														
指導計画(指導 内容・方法)														
評価方法														
上記以外の 指導課題														

(学校内で作成する指導計画 様式記入例)

個別の指導計画 (参考様式)

様式2 (指導に関する記録)

フリガナ												作成日	平成 年 月 日		
児童生徒氏名												更新日	平成 年 月 日		
指導者												週 () 単位時間			
(指導補助者)												平成 年 月 日			
日本語状況	<p>情報検索サイト「かすたねっと」の「教材」→「指導者」から、「日本語の能力に応じた指導プログラム例」の「大目標」等を参考にすることができる。</p>											日本語能力測定			
												DLA(JSL 対話型アセスメント)			
												【話す】			
												【読む】			
												【書く】			
												【聴く】			
												その他			
指導目標	日本語で学校生活に参加するために必要な文字や文など、基礎的な日本語の力を育てる。学校生活や社会生活において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
取り出し指導時数															
日本語指導プログラム	<p>日本語基礎・技能別日本語 (週4時間)</p>											<p>日本語と教科の統合学習 (週2時間)</p>			
	<p>文部科学省作成「外国人児童生徒受入れの手引き」を参考に、5つのプログラム①サバイバル日本語、②日本語基礎、③技能別日本語、④日本語と教科の統合学習 ⑤教科の補習、のいくつかを組み合わせ指導を行い、指導期間を記入する。</p>														
指導計画(指導内容・方法)	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な文型や語彙を使って会話ができる。 平易な文で構成された、ある程度のまとまった内容の文章を読んで理解できる。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を簡単な日本語に書き換えたもので在籍学級の授業の予習を中心に行う。 算数・理科はなるべく教科書を使い、学習活動に必要な重要表現を理解する。 														
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象児童生徒の日本語能力に応じて、指導目標を立てる。 上の表で示した「日本語指導プログラム」の内容をもとに記入する。 														
上記以外の指導課題															

3

『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント(DLA)』の活用と実践



『DLA』とは

『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント(DLA: Dialogic Language Assessment)』(以下『DLA』と表記)とは、日本語能力測定方法の一つです。日本語指導が必要な児童生徒の日本語能力を明らかにして、現在の状況を把握した上で、どのような指導や対応が必要かを知るための評価ツールです。

日本語指導が必要な児童生徒の言語運用力や思考力、学びの方法等は、当該児童生徒の母語、年齢、入国年齢、滞在年数などによる影響を受けるために、いわゆる従来型の紙筆テストや集団テストだけでは、本来の力を測ることはむずかしい面があります。

『DLA』は、一番早く伸びる「会話力」を使ってできる「対話型」を基本としており、指導者と児童生徒が1対1で向き合うことで、日頃の学習の成果と、今後の支援活動で必要となる学習内容や学習領域を絞り込んでいく上で必要な情報が得られるように開発されています。



(注)『DLA』の冊子は、平成26年に文部科学省より、日本語指導が必要な児童生徒が在籍する学校(平成25年5月現在)、市町村教育委員会に配付されました。学校にない場合は、文部科学省のWebページ『CLARINETへようこそ』からダウンロードすることができます。
(→24ページ参照)



『DLA』の対象

『DLA』は、次の6つのアセスメントで構成されています。

『DLA』を実施する場合、通常、指導者は日本語で行うため、当該児童生徒が日本語での受け答えが少しできるようになってから行います。アセスメントごとの対象となる児童生徒(実施できる児童生徒の目安)は下表のとおりです。

アセスメント	対象(実施できる児童生徒の目安)
①<はじめの一步>「導入会話」	すべての子ども
②<はじめの一步>「語彙力チェック」	(日本語能力の程度が全く予測がつかない場合を含む)
③DLA<話す>	・最低限の受け答えができる
④DLA<読む>	・ある程度の会話力がある ・日本語の文字を習得できている
⑤DLA<書く>	・話したことを文字化できる
⑥DLA<聴く>	・会話力はあるが授業内容の理解がむずかしい(まとまった話をどの程度理解できるか判断したい場合)



『DLA』の実施

「話す」「読む」「書く」「聴く」の4つの技能ごとに、実施ガイドに書かれている手順、声かけ、発問例に従って進めます。実施の際には、ビデオで録画または音声を録音して、あとで評価を行う際に役立てます（アセスメント中、児童生徒の前でメモをとらないことが望ましい）。

ここでは、4技能のうち「聴く」の実践ガイドをもとに進め方を紹介します。

<聴く> の進め方

- ① 聴解用 DVD を視聴する前に必要に応じて視覚補助教材を示して、話のテーマ、キーワードの理解を深め、児童生徒が関心を持てるようにします。
- ② 聴解用 DVD を1回視聴させます。
- ③ 視聴した後で、児童生徒が話の内容をどのくらい理解できたか、話の大筋を児童生徒に再話させながら確かめます。

<聴く>

ステージ	聴解力	聴解行動	語彙・表現
6	□教師の話の内容の大筋と流れがよく理解できる	□教師の話の内容に関心を持ち、集中して最後まで聴け、それを基に積極的に授業に参加できる	□授業のテーマに関連した語彙・表現がよく理解できる
5	□教師の話の内容の大筋と流れがある程度理解できる	□教師の話の内容に関心を持ち集中して最後まで聴け、それを基に授業にある程度参加できる	□授業のテーマに関連した語彙・表現がある程度理解できる
4	□教師の話の内容の大筋と流れが部分的に理解できる □身近な内容の話聴いて大体理解できる	□教師の話の内容に関心を持ち集中して最後まで聴け、それを基に授業に部分的に参加できる □身近な内容の話、最後まで聴こうとする	□授業のテーマに関連した語彙・表現が部分的に理解できる □身近な内容の話の語彙・表現が大体理解できる
3	□ごく短い身近な内容の話聴いて支援を得てある程度理解できる	□ごく短い身近な内容の話を、支援を得て最後まで聴ける	□ごく短い身近な内容の話の語彙・表現がある程度支援を得て理解できる
2			
1			

「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」より抜粋（135ページ）

聴くまえに...

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。
「これから「えんそく」のビデオを見ます。「過足」って知っていますか。」
- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(1)を示して、キーワードを確認する。
「これは「過足」の絵です。この絵を見てください。
・例えば、次のような応答をする。「これは何ですか。」「これはバスですね。」「バスでどこへ行きますか。」「さくら山へ行きますよ。さくら山へ過足に行きます。」...
- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。
「過足に行ったことがありますか。過足は好きですか/楽しかったですか。」

「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」より抜粋（111ページ）

診断シート【A】 聴解用 DVD1「えんそく」

名前： _____ (男・女) 学年(所属)： _____ 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてもよい。
■評価基準■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

教師の話の内容と	聴解力		
	5	3	1
教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5	3	1
感想や意見が言える	5	3	1
聴解行動			
集中して最後まで聴ける	5	3	1
関心を持って聴ける	5	3	1

「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」より抜粋（127ページ）

- ④ アセスメント終了後、実施中の様子を録画・録音したものをもとに、診断シート（上表）に評価を記入します。
- ⑤ 診断シートをもとに、「JSL評価参照枠」（左表）で、子どもの聴く力がどの程度か（ステージ1～6のどこにあたるか）を検討します。

〈話す〉 〈読む〉 〈書く〉 の JSL 評価参照枠

≪「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」より抜粋（36、72、104ページ）≫

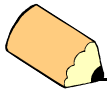
〈話す〉	ステージ	話の内容・ まとめ	文・文法	文法的正確度	語彙	発音・流暢さ	話す態度
〈話す〉	6	<input type="checkbox"/> 年齢相応の教科内容と関連した話のタスクがこなせる	<input type="checkbox"/> まとまった話が1人でできる	<input type="checkbox"/> 文法的正確度が高い	<input type="checkbox"/> 年齢相応の教科学習語彙が使える	<input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が大変高い	<input type="checkbox"/> 自分から進んで発言し、会話を自らリードできる
	5	<input type="checkbox"/> 年齢相応の教科内容と関連した話のタスクがある程度こなせる	<input type="checkbox"/> ある程度まとまった話が話せる	<input type="checkbox"/> 文法的正確度がある程度高い	<input type="checkbox"/> 教科学習語彙がある程度使える	<input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が高い	<input type="checkbox"/> 様々な会話に積極的に参加することができる
	4	<input type="checkbox"/> 対話タスクがこなせる	<input type="checkbox"/> 文を生かして、ある程度話せる	<input type="checkbox"/> 退文レベルで誤用がほとんど目立たない	<input type="checkbox"/> 日常語彙が使える	<input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度がある	<input type="checkbox"/> 聞かれた質問に答えることができる
	3	<input type="checkbox"/> 対話タスクがある程度こなせる	<input type="checkbox"/> 単文レベルの応答ができる	<input type="checkbox"/> 単文は生成できるが、誤用や誤用などの誤用が目立つ	<input type="checkbox"/> 身近な日常語彙が使える	<input type="checkbox"/> 流暢度が低い	<input type="checkbox"/> 聞かれた質問にある程度答えられる
	2	<input type="checkbox"/> 基礎タスクがある程度こなせる	<input type="checkbox"/> 一語文	<input type="checkbox"/> 語順が乱れ、活用が不正確	<input type="checkbox"/> 基礎語彙が使える	<input type="checkbox"/> 流暢さなし	<input type="checkbox"/> 定易表現や知っている単語でコミュニケーションをとろうとする
	1	<input type="checkbox"/> 基礎タスクの質問にいくつか答えられる	<input type="checkbox"/> 一語文	<input type="checkbox"/> 単語レベル	<input type="checkbox"/> わずかな基礎語彙が使える	<input type="checkbox"/> 流暢さなし	<input type="checkbox"/> ジェスチャーや表情でコミュニケーションをとろうとする

〈読む〉

ステージ	読解力	読書行動	音読行動	語彙・漢字	読書習慣・興味・態度
6	<input type="checkbox"/> 年齢相応の読み物を読んでよく理解できる	<input type="checkbox"/> より深く理解するために必要な様々な読解方略（予測・推測、関連づけ、読み返し等）を効果的に使うことができる	<input type="checkbox"/> 文や意味のまとまりに区切りながら、流暢に読める	<input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がよく理解できる	<input type="checkbox"/> 年齢相応の本や読み物を通してたくさん読む習慣がある
5	<input type="checkbox"/> 年齢相応の読み物を読んで、大まかに理解できる	<input type="checkbox"/> 理解するために必要な読解方略がある程度使うことができる	<input type="checkbox"/> ややゆっくりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って読める	<input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 年齢相応の本や読み物がある程度読む習慣がある
4	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢相応の読み物を読んで、大まかに理解できる。	<input type="checkbox"/> 支援を得て、理解するために必要な読解方略がある程度使うことができる	<input type="checkbox"/> 安定して、文節や単語に区切って読める	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢相応の語彙や漢字が理解できる	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢相応の本や読み物を読む習慣がある
3	<input type="checkbox"/> 2つ（または3つ）下の年齢相応の読み物を読んで、大まかに理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、理解するために必要な読解方略を使い始める	<input type="checkbox"/> ゆっくりではあるが、だいたい文節や単語に区切って読める	<input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ（または3つ）下の年齢相応の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ（または3つ）下の年齢相応の本や読み物を読む
2	<input type="checkbox"/> 普段よく目にする身の回りの簡単な単文が理解できる	<input type="checkbox"/> 文字の読み間違えに気づく	<input type="checkbox"/> 文字習得が進む	<input type="checkbox"/> 身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、興味のある読み物や身の回りの書かれたものを読むとする
1	<input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 文字と音との対応ができる	<input type="checkbox"/> 文字習得がよくなる	<input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> ごく短い読み物や書かれたものに興味を示す

〈書く〉

ステージ	内容	構成	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール	書く態度
6	<input type="checkbox"/> 内容に合った長さの作文が書ける <input type="checkbox"/> 内容が豊か <input type="checkbox"/> 年齢相応の表現技術が使える	<input type="checkbox"/> まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 効果的な段落が作れる	<input type="checkbox"/> 複雑な文が書ける <input type="checkbox"/> 正しい文が書ける <input type="checkbox"/> 文末の統一ができる	<input type="checkbox"/> テーマに見合った適切な語彙を使って書ける <input type="checkbox"/> 年齢相応のさまざまな語彙や漢字が使える	<input type="checkbox"/> 表記上、正確度の高い文章が書ける	<input type="checkbox"/> 書くことに意欲的に取り組む <input type="checkbox"/> 書く前に準備をする <input type="checkbox"/> 書いた後読み返して修正しようとする
5	<input type="checkbox"/> 内容がある程度豊か <input type="checkbox"/> 表現上の工夫がある	<input type="checkbox"/> ある程度まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 段落が作れる	<input type="checkbox"/> 複雑な文もある程度書ける <input type="checkbox"/> 大体正確な文が書ける <input type="checkbox"/> ある程度文末の統一がとれる	<input type="checkbox"/> テーマに見合った語彙がある程度使える <input type="checkbox"/> 年齢相応に近い語彙や漢字が使える	<input type="checkbox"/> 表記上、誤用が少ない文章が書ける	<input type="checkbox"/> 課題作文に積極的に取り組む <input type="checkbox"/> 書く前の準備がある程度広げる <input type="checkbox"/> 書いた後読み返しをする
4	<input type="checkbox"/> テーマに合った作文が書ける	<input type="checkbox"/> 文と文をつなげて、流れのある作文が書ける	<input type="checkbox"/> 誤用はあるが意味の通じる文が書ける	<input type="checkbox"/> 日常語彙を使って作文が書ける <input type="checkbox"/> 少し下の年齢相応の語彙や漢字が使える	<input type="checkbox"/> 表記上の誤用はあるが、意味は通じる文が書ける	<input type="checkbox"/> 課題作文に自分で取り組む
3	<input type="checkbox"/> テーマと関連がある文がいくつか書ける	<input type="checkbox"/> テーマと関連がある複数の文が書ける	<input type="checkbox"/> 誤用が多いが、連文が書ける	<input type="checkbox"/> 日常語彙がある程度使った文が書ける <input type="checkbox"/> 少し下の年齢相応の語彙や漢字がある程度使える	<input type="checkbox"/> 文字・表記上の誤用が多い	<input type="checkbox"/> 支援を得て課題作文に取り組む
2	<input type="checkbox"/> 使い慣れた表現を使って書こうとする	<input type="checkbox"/> 文を書こうとする	<input type="checkbox"/> ひらがなとかたかなを使い分けて文を書こうとする	<input type="checkbox"/> 練習語彙や漢字を使って文を書こうとする	<input type="checkbox"/> 表記ルールをある程度理解して文を書こうとする	<input type="checkbox"/> 支援者といっしょに考え、支援を受けながら書くことに取り組もうとする
1	<input type="checkbox"/> テーマに関連する単語が書ける	<input type="checkbox"/> いくつかの関連する単語を並べることができる	<input type="checkbox"/> ひらがなが書ける	<input type="checkbox"/> よく知っている単語が書ける	<input type="checkbox"/> 表記ルールについての理解が浅まる	<input type="checkbox"/> 作文を書く指導を受け始める



『DLA』の活用

『DLA』は、実施する時期によってさまざまに活用できます。

- (1) 転入してきたとき、日本語指導を開始するとき、年度当初など
児童生徒の日本語能力、母語の力、それまでの生活経験などについて把握します。
その上で、日本語指導についての指導計画を立てます。
- (2) 日本語指導を実施している期間中
気になる児童生徒の子どもの学びやつまずきなどを把握します。また、得られた情報を当該児童生徒に関わる教員と共有し、支援の在り方や支援の内容などを検討します。

A校の活用例

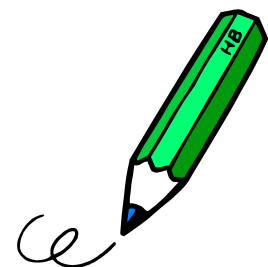
夏休みの補習の時間に、対象児童に対しDLAを実施している。その結果を、担任に伝え、2学期からの取り出し指導の指導時数の参考にしてている。9月の懇談では、保護者に日本語指導教室の学習の様子と、DLAの結果を伝えている。

- (3) 学期末や学年末

日本語指導開始時や年度当初との比較により、日本語の上達の状況を測ります。学期末や学年末の評価にも活かします。また、今後の日本語指導の期間、頻度、形態（取り出し指導や入り込み指導等）について検討します。

B校の活用例

年度末にDLAを実施する際、録画したビデオを当該児童生徒に関わる教職員全員で視聴することにしてている。実際にDLAを活用した経験がない教職員も、当該児童生徒の日本語能力について理解して、課題等が共有できている。
年度初めに、新しく担当する教員等でビデオを視聴したり、前年度のビデオと比較して、児童生徒の成長を保護者に伝える際に参考にしたりしている。



4

教材・支援方法の工夫例

「カード」の活用

かな、漢字、ことば、絵など様々な学習素材をカード等にすることで、児童生徒に提示する、操作させる、ゲームとして遊ばせるなど、指導方法の幅が広がります。

■ひらがな・カタカナカード（写真1）

同じ文字をオモテ・ウラにする。

■ことば絵カード

オモテ面には「絵」。ウラ面には、その絵の「日本語」での名称。当該児童生徒の母語での名称を併記してもよい。

■ことばカード（写真2）

濁音、促音、撥音、長音、拗音などを含む言葉のカード。発音練習等に使う。短時間でもできるので、すき間の時間での活用に便利。母語も併記すると意味理解に役立つ。

■動詞かるた

（例）「歩く」

取り札には「子どもが歩いている絵」と「あ」の文字。読み札は「歩く」の文字。読み札はなくてもよい。指導者が、学習状況に合わせて「歩きます」「歩こう」「ゆっくり歩く」等言い換えるとよい。

■漢字カード（写真3）

ウラ面には、漢字の「読み」や「用例」。



写真1



写真2



写真3

「リライト教材」と「デリート教材」の活用

日本語指導が必要な児童生徒の多くは、在籍学級の友だちが使用している教科書を使って、同じ学年の教科内容を学習したい、という願いを持っています。日本語能力に課題があったとしても、下の学年の教科書を使って学習することは、自尊感情を傷つけたり自信を失わせたりする場合もあり、当該児童生徒にとってあまり良い影響を与えない可能性があります。しかし、学級で使用している教科書の文章を読み、理解することも、当該児童生徒にとっては大きな負担になります。

そこで、教科書の原文を当該児童生徒の日本語能力に対応させた「リライト教材」や「デリート教材」を活用することで、効果的に教科学習を進めることができます。

リライト教材

リライト教材は、教科書の文中の言葉を書き換えたり、むずかしい文章を平易にした
りした教材です。「分かち書き」や、改行をして一行を短くするなどして、長文を読む
ことに負担を感じる児童生徒も読む意欲を持てるように工夫して作成します。

教科書文（原文）

むかしむかし、あるところに、
じいさまとばあさまが
ありました。日曜日
をやってくらして
おりました。ある
年の大みそか、
じいさまは
ためいきを
ついてい
いました。

教材例① 初期日本語指導 の児童生徒用

むかしの おはなしです。
おじいさんと
おばあさんが
いました。
いえには
おこめも
やさいも
ありませんでした。
いちねんさいごの 日です。
おじいさんは、
ためいきを
つきました。

教材例② ある程度読める ようになった児 童生徒用

むかし あるところに、
じいさまとばあさまが
いました。
二人の生活は
たいへん
びんぼうでした。
ある年の 大みそかに
じいさまは
ためいきを
ついて
いきました。

デリート教材

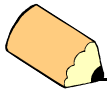
デリート教材は、理解しにくい形容詞やむずかしい単語を教科書の文から消し（減ら
し）、文章を短く、わかりやすくした教材です。リライト教材の作成よりも準備に時間
がかからないため、作成しやすい教材です。

教科書文（原文）

わたしたせなかをかくしました。
「いやいや、これはどうも失礼。」
月は、きまり悪そうに、まどから
はなれました。町は、月の光につ
つまれて、
銀色にかすんでいます。
月が行ってしまうと、チェロは、
しょんぼりとして言いました。
「わたしは、うそを言ってしまった。
こわれているのに、こわれていな
いなんて。」

教材例

「これはどうも失礼。」
月は、まどから
はなれました。
わたしは、うそを言った。
チェロは、
こわれているのに、こわれていな
いなんて。」



日本語指導における支援の具体例

各教科等を通じての日本語指導においては、児童生徒が新しい語句の意味がわからずにいる時にやさしいことばに言い換えて説明するというような「理解を促す支援（理解支援）」、児童生徒が適当な表現が見つけれない時に表現をいくつか示して選択させるというような「表現を促す支援（表現支援）」、そして、繰り返し聞かせて定着を促進するような「記憶を促す支援（記憶支援）」があります。

具体例には以下のようなものがあります。

■「学校教育における JSL カリキュラム中学校編」（文部科学省）より■

① 理解支援	言い換える	生徒が知っていることばや母語などで言い換える
	視覚化する	実物、模型、絵、写真、図などを利用する。色分けして示す。
	例示する	具体的な例を示す
	比喩を利用する	生徒が知っているものに例える
	対比させる	対になることばや事柄を示す
	明示する	課題、手順、見通し、流れなどを明確に示す
	簡略化する	幾つかに分割したり、重要な点だけに絞ったりして簡略化して示す
	整理する	分かりやすく整理して示す
	補足する	背景知識やことば、情報などを補う
	関連付け	事柄の関係性（因果関係、順次性、上位・下位など）を示して理解を促す
既有知識の活性化をする	先行経験、既習知識に関連付けて説明する	
② 表現支援	選択肢を示す	語彙や表現の例を示し、選ばせる
	表現方法を示す	ことば以外の表現方法（絵、写真、図など）を示し、多様な方法での表現を促す
	モデルを示す	文や文章レベルで、発表や作文のモデルを示す
	キーワードを示す	内容に関するキーワードを示し、表現内容を構成させる
	対話で引き出す	やりとりで表現したい内容を引き出し、文章化する
	母語で表現させる	母語で表現させ、それを日本語で表現させる
	学習した内容を分割して示す	学習した内容を分割して示し、並べ替えや選択をさせて、発表内容を構成させる
内容構成のためのシートを準備する	発表／作文の構成をシートで示し、それに基づいて内容を構成させる	
③ 記憶支援	内容の構成例を示す	発表／作文の内容構成の例を示し、参考にさせる
	視覚化する	絵を描くなど視覚イメージに結びつけて示す
	身体化する	意味を身体で表現させたり、機械的に手や体を動かす動作と結びつけたりする
	音声化する	語彙や表現を声に出して、リズムカルに言わせる
	物語化する	意味のある文や会話、物語の中に入れ込んで示す
	連想させる	関連のあることばや事柄と結びつけて示す
	グループ化する	トピックや使い方、類似の意味等でことばをグループ分けする
	反復する	上の工夫をして、繰り返し聞かせる、言わせる、描かせる、読ませる
接触機会を増やす	上の工夫をして、多様な活動を通して新しい語彙・表現に触れる機会を確保する	

【Q1】「特別の教育課程」での日本語指導の実施により、これまでと異なることはありますか。

【A1】通常の学級の教育課程と異なる特別の指導を行い、その指導目標に対する学習評価を行うこととなります。このことにより、日本語指導が必要な児童生徒に対し、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導を提供できるようになります。

【Q2】日本国籍または日本国籍との二重国籍の児童生徒にも、「特別の教育課程」による日本語指導を行うことはできますか。

【A2】国籍に関係なく、「日本語で日常会話が十分にできない児童生徒」及び「日常会話ができて、学年相当の学習言語能力が不足し、学習活動への取組みに支障が生じている児童生徒」については対象となります。

【Q3】指導計画はだれが作成しますか。

【A3】教育課程の編成は校長の職務ですので、「特別の教育課程」についても、校長が編成することになりますが、実際の指導計画については、校長の責任のもと、日本語指導担当教員や学級担任・教科担当教員等が連携して計画します。

通訳などの指導補助者の意見も参考にすると、より効果的な計画を作成することができます。

【Q4】他校の教員の巡回指導による「特別の教育課程」を実施している場合、指導計画は誰が作成するのですか。

【A4】その場合も、あるいは当該児童生徒が他の学校に行って「特別の教育課程」による日本語指導を受ける場合も、指導計画の作成は、児童生徒の在籍する学校において作成します。作成にあたっては、その指導者の意見も参考にします。

【Q5】指導計画はいつ作成しますか。

【A5】年度末に、来年度の「特別の教育課程」による日本語指導の対象となる児童生徒について検討し、年度初めには指導計画を作成します。年度途中で転入や編入があった場合は、その児童生徒に「特別の教育課程」による日本語指導を行うかどうかを判断し、必要であれば速やかに作成します。

【Q6】指導計画の内容はどのようなものを書けばいいのでしょうか。

【A6】個別の指導計画（学校用）には次のようなことを記載します。

- 児童生徒に関する現状
- 指導に関する計画（指導時数、指導目標、指導内容（日本語、各教科等）
- 学習評価に関するもの

また、学校設置者へ提出する実施計画には、「個別の指導計画」（学校用）をもとに、対象となる児童生徒についての指導計画の概要（指導時間等）を一覧表としてまとめます。（9～12ページの様式例を参照して下さい。）

【Q7】「特別の教育課程」を編成していることを保護者に伝えなければなりませんか。

【A7】児童生徒の日本語能力、学習状況等に加え、保護者の希望や児童生徒の将来等についても踏まえ、保護者の理解と協力を得るよう努めます。

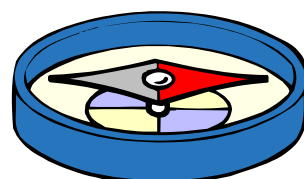
児童生徒が受ける指導の内容、授業時数、指導の形態、学習評価の結果等について、必要に応じて母語が分かる支援者の協力を得ながら、保護者に対して説明を行い、理解を求めたり、保護者の疑問に答えたりすることが大切です。

【Q8】日本語指導を行った記録はどのようにすればいいのでしょうか。

【A8】「特別の教育課程」によ

る指導を実施した授業時数、指導期間、指導の内容や指導の結果（評価）等を記入し、指導要録への記載や、指導者や校種の引き継ぎなどの参考となるようなものにします。

その際、「指導計画」の様式を活用し、実際に実施した内容や評価を記入していくことも一つの方法です。



6

外国人児童生徒等の支援のために

「居場所」づくり

日本語指導が必要な児童生徒は、言語や文化、習慣が異なる日本の社会や学校の中で、ストレスを抱えて生活しています。そのため、当該児童生徒が安心して生活や学習ができる「居場所」づくりを行うことが大切です。

そのため、周りの児童生徒たちと温かなつながりをつくるための集団づくりや人権教育により、在籍している学級が、当該児童生徒にとって「自分を受け入れてくれる、安心できる、落ち着ける」と思える場所になっていることが最も大切です。しかし、特別の指導（取り出し指導等）を行うための「日本語教室」、保健室、適応指導教室等、在籍学級以外の「居場所」も、当該児童生徒に安心感を与え、ストレスを和らげたりエンパワーする効果が期待できます。

「居場所」とは、物理的な場所だけでなく「環境」の意味を含みます。文化や習慣の違いにより、学校生活で当該児童生徒が戸惑いや不安を感じる可能性がある事柄について、教職員が理解を深め、「違っていることはすてきなこと」という認識に立って当該児童生徒に接する必要があります。当該児童生徒が安心して学校生活を送れるようにするために、具体的にどのように支援できるのかを学校全体で考えることが大切です。

母語・母文化の学習

外国にルーツがある児童生徒が母語・母文化をもっていることはかけがえのない財産であるという認識をもち、そのことを尊重して取り組みを進めることが重要です。

日本語指導が必要な児童生徒の多くは、家庭では日本語とは違う言語や異なる文化・価値観に囲まれて育ってきています。一方、学校では日本語を使い、日本の生活習慣の中で学校生活を送っており、日本での生活が長くなる中で母語を忘れてしまうこともあります。そのため、保護者とのコミュニケーションがうまくいかず、保護者と関係をうまく結べなくなってしまう場合があります。

そういった実態を踏まえ、日本語能力や教科等の学力をつけることはもちろんですが、当該児童生徒が自分のルーツに誇りをもち、自尊感情を高めるといった、自らのアイデンティティを確立できるように支援する必要があります。総合的な学習の時間等において国際理解の学習として、周りの児童生徒とともに互いの文化等について学びあう取り組みを行ったり、当該児童生徒が母語・母文化にふれるための課外活動等を実施したりすることが大切です。

本名指導について

外国人児童生徒を学校に受入れる際は、児童生徒の名前の表記・発音を正確に聞き取ります。

外国の名前の中には日本の「姓」「名」に相当する部分の順序がはっきりしていない場合があります。また、中国など漢字圏の国の場合、日本で使われていない漢字や文字

が使われていることもあるため、ていねいな確認が必要です。その際に、漢字表記であっても「読み方（フリガナ）」は日本語読みではなく、子どもの母語で発音されるものにするのが大切です。

児童生徒それぞれに大切な名前（本名）があります。本名は個人のアイデンティティを示す大切なものです。外国人児童生徒やその保護者に対しては、学校として「互いの違いを尊重し合い共に生きていく教育を進めていく」という姿勢を伝えるとともに、当該児童生徒が本名で通学できる学校環境を醸成していく取組みを進めましょう。

なお、本名指導の詳細については、大阪府教育委員会『互いに違いを認めあい、共に学ぶ学校を築いていくために 一本名指導の手引（資料編）』も参照してください（府Webページよりダウンロードできます）。

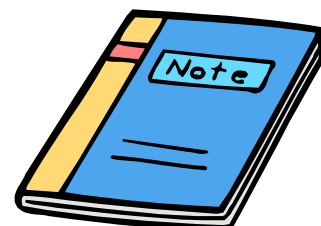
【参考】

受入れ当初に、特に配慮しなければならないことの一つに、外国人児童生徒の名前についての認識があります。

日本人の名前は「姓」と「名」の2つで構成されているため、学校ばかりでなく、様々な場面で活用される書類などについて、基本的に2つの枠にそれぞれ「姓」と「名」を記入することになります。しかし、世界には様々な名前が存在し、必ずしも2つの枠に収まるとは限りません。名前は、個人のアイデンティティの根源です。本名をしっかりと確認し、書類等に記入する（してもらう）ことが重要です。

また、学校や役所などで、例えば南米出身の方が記入したアルファベット表記を見て、教員や係が、英語的な発音（例：パウロ → ポール等）で登録してしまうこともあるようです。日本人が外国人を受け入れる場面で、相手の文化を尊重し、柔軟に受け入れる配慮がないと、気づかないうちに名前すら変えてしまうことがあるのです。来日当初は、当人は、このようなことが起きていることにすらなかなか気付かなかったり、気づいても言い出せなかったりします。しかし、後になって問題となることも多いのです。このような名前に関する配慮は、学級担任としても常に意識しておきたいものです。

（文部科学省『外国人児童生徒受入れの手引き』より）



7

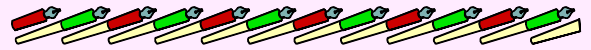
参考資料・教材の紹介

日本語指導資料等ダウンロード資料一覧

項目	タイトル	作成者
全般	CLARINETへようこそ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm	文部科学省
	かすたねっと http://www.casta-net.jp/	文部科学省
受入れについて	帰国・渡日児童生徒受入マニュアル http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/21636/00000000/Ukeire_manual.pdf	大阪府教育委員会
	チェックシート・個人カード http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/21636/00000000/check_sheet.pdf	大阪府教育委員会
	外国人児童生徒受入れの手引き http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm	文部科学省
	外国人生徒のための就学ガイドブック http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1320860.htm	文部科学省
	外国人児童生徒教育資料 http://www.gaikoku.toyohashi.ed.jp/index.htm	豊橋市教育委員会
	帰国外国人児童生徒教育に関するコンテンツ一覧 http://www.keins.city.kawasaki.jp/1/KE1026/h25/kikoku_gaikoku/kikokugaikoku.html	川崎市総合教育センター
	日本語指導アイデア集 http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/21636/00000000/support_idea.pdf	大阪府教育委員会
初期日本語指導	日本語指導教材「こんにちは」(小学校版・中学校版) http://www.osaka-c.ed.jp/jinken/nihongo.html	大阪府教育センター
	新版 みえこさんのにほんご http://www.pref.mie.lg.jp/GAKOKYO/HP/27461025557.htm	三重県教育委員会
	外国人児童生徒用日本語テキストたのしいがっこう http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/tanoshi_gakko.htm	東京都教育委員会
	翻訳教材開発 http://www.hyogo-ip.or.jp/support/modtreepage01_7144/kyouzai/	兵庫県国際交流協会
	TS日本語教室 いっしょに学ぼう! http://www.hakuoh.ac.jp/nihongo/	高橋節子(白鳳大学)
	NEWS WEB EASY http://www3.nhk.or.jp/news/easy/	NHK
	学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について(最終報告)・小学校編 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm	文部科学省
JSL	学校教育におけるJSLカリキュラム(中学校編) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/011.htm	文部科学省
	外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント DLA http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm	文部科学省

8

実践事例



ここから19の実践事例を紹介します。

各実践事例には、モデルとなった対象者の「学年」「第一言語（母語）」「DLAステージ」等を示しています。まだDLAを実施していない児童生徒については、対象者の「背景」のほか「指導目標」「指導内容」からおおよその見当をつけていただくことも可能です。限定的にとらえず、実際の児童生徒の状況に合わせて活用してください。

なお、目次にある「DLA（全体）」は、4技能のDLAの結果をまとめた総合的なステージです。

実践事例 の 目次

事例番号	学年	DLA (全体)	教科	単元名	ページ
● 実践事例の見方					26-27
1	小学1年	2	国語	ひらがな ことばあつめ	28 29
2	小学2年	4	算数	水のかさをはかろう	30-31
3	小学2年	3	国語	あいうえお作文をつくろう	32-33
4	小学3年	3	国語	ありの行列	34-35
5	小学3年	3	国語	読書活動	36-37
6	小学4年	3	社会	災害からまちを守るために	38 39
7	小学4年	3	算数	小数の たし算とひき算	40-41
8	小学4年	3	算数	がい数	42 43
9	小学5年	3	社会	これからの食料生産	44-45
10	小学5年	3	国語	世界で一番やかましい音	46 47
11	小学6年	3	国語	海の命	48-49
12	小学6年	3	国語	形が変わる言葉に気をつけよう	50-51
13	小学6年	4	国語	新聞を読む	52-53
14	中学2年	3	数学	1次関数	54-55
15	中学2年	3	国語	言葉の力	56 57
16	中学2年	2	国語	漢字の学習	58-59
17	中学3年	2	国語	故郷	60 61
18	中学3年	3	国語	月の起源を探る	62-63
19	小学3年	2	特別活動	遠足に行こう	64-65

実践事例の見方

各事例における対象者の「学年」や「第一言語（母語）」「DLAステージ」を記載していますが、限定的にとらえず、実際の児童生徒の状況に合わせて事例の内容を参照してください。

事例〇

対象	〇学校〇年	第一言語	〇〇語	DLAステージ
背景	渡日時期や渡日してからの年数、就学状況や家庭内で話す言語など、指導につながる子どもの状況を記載しています。			【話す】
				【読む】
				【書く】
				【聴く】



年間指導計画（概要）

DLAステージは6段階にわかれており、4技能それぞれのアセスメントを実施した結果を記載しています。14～15ページの「JSL評価参照枠」と合わせて参照して下さい。

指導目標	【話す】 【読む】 【書く】 【聴く】	児童生徒の日本語能力をふまえ、年度内で獲得させたい4技能それぞれの目標を記載しています。	
		日本語	教科（〇〇）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 指導目標に到達するために、年間を通して行う、児童生徒の日本語能力に応じた、日本語指導としての学習活動を記載しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科の学習を通じて行う日本語指導という視点で、具体的な学習活動を記載しています。 	
後期	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の状況に応じて計画を見直していく必要性から、前期・後期に分けて記載しています。 		<p>指導例</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画で記載した学習活動のうち、四角囲みの学習活動の指導例を、右のページに記載しています。

指導による到達点

評価	【話す】 【読む】 【書く】 【聴く】	指導目標に対する児童生徒の到達点を、主な「できた」こととして記載しています。
----	------------------------------	--

事例1

ひらがな ことばあつめ

対象	小学校1年	第一言語	英語	DLAステージ	
背景	小学校入学半年前に渡日。日本での幼稚園等の経験はない。就学前の2月の面談では語彙は少ないが、ごく簡単な会話はできた。入学時、教員の指示等について半分程度の理解であった。家庭では父は英語、母は英語と日本語で話す。			【話す】	3
				【読む】	2
				【書く】	2
				【聴く】	3



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す】 簡単な単語を使って、話すことができる。名詞、動詞、形容詞などの語彙を増やす。 【読む】 教科書の文章を音読し、あらすじを理解することができる。 【書く】 身近に使う語彙を増やし、簡単な文章を書くことができる。 【聴く】 日常生活でよく使う会話の内容を理解し、質問したり答えたりすることができる。	
	日本語	教科(国語)
前期	<ul style="list-style-type: none"> 単語カードや絵カードなどにある興味のある言葉を探し、語彙を増やす。 絵や図、写真などを手がかりに、分かち書きで書かれた短い文を音読する。 長音、拗音、撥音、促音を含む単語をひらがなで書く。 身近な内容の質問に対して、簡単な単語を使って感想や思ったことを言う。 	<ul style="list-style-type: none"> 単語をカードにして語彙を増やす。 ▶ 指導例 物語文の挿絵や絵など文章と関係しているところを確認し、それらを音読し、おおまかなあらすじを理解する。 物語文や説明文に出てきた単語を使って、よく使う文型表現を書く。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 生活に関して使用頻度の高い単語や定型表現を使って話す。 絵や図、写真などを手がかりに、カタカナや1年生で習う漢字が混じった文章を読み、おおまかなあらすじを理解する。 長音、拗音、撥音、促音を含む単語をカタカナで書く。 行事等での感想や思ったことを書く。

指導による到達点

評価	【話す】 教科書や絵本などの大まかなあらすじを理解し、内容を話すことができるようになった。質問したり答えたりするとき、短い文で話せるようになった。
	【読む】 大きな声で音読し、おおまかな内容を理解することができた。
	【書く】 既習の言葉を使い、経験したことやそのときの気持ちを書き表せるようになった。
	【聴く】 日常よく使う表現をおおむね理解できるようになった。



指導例（概要）

1 教科・単元名

国語・「ひらがな ことばあつめ」

2 目標

ひらがな学習の際に、「最初にくる言葉」の語彙を増やす。

3 本時の展開

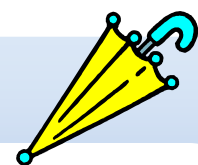
(※) 絵辞典

→ 図鑑のように絵やイラストとともに短くわかりやすい言葉で説明している辞典

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①英語で、言葉集めをする。	<ul style="list-style-type: none"> 英語の「A」や「B」で始まる語を発表させる。 インターネットで外国の言葉を検索できる環境を整えておく。 	パソコン、タブレット等
②「あ」で始まる単語の言葉カードと絵カードを3組用意し、それらを組み合わせる。	<ul style="list-style-type: none"> 2文字、3文字、4文字の言葉のカードを用意する。 (例：あり、あひる、あさがお) 口の形を写真や画面で示す。 口の形をよく見て発音させる。 	言葉カード、絵カード等 教科書 電子黒板 実物投影機 口の形がわかる写真等
③「あ」で始まる言葉について、指導者に続いて発音し、リズム打ちをする。	<ul style="list-style-type: none"> 何度も同じ口、発音を繰り返す。 ひらがなのリズム打ちの方法をゆっくり示し、1音と1文字を対応できるようにする。 繰り返しリズムよく練習させる。 難しい時は指導者に続いてさせる。 	日本語の絵辞典(※)等
④一人で発音し、リズム打ちをする。	<ul style="list-style-type: none"> 最後は一人で行わせる。 	
⑤「あ」で始まる言葉集めをし、その後リズム打ちをする。	<ul style="list-style-type: none"> まずは一人で言葉集めをし、その後、絵辞典(※)等を見せる。 	



コラム① 「ゴロゴロ」って何の音



「雷の音」について、日本では「ゴロゴロ」という擬音語で表現することが多いですが、「ゴロゴロ」という言葉を聞いても、雷をイメージしない文化もあります。例えば中国語では「ロンロン」等、国や地域によって表現が異なるため、テストで「ゴロゴロ」と書かれていても何の音かわからない児童生徒もいます。日本語指導やクラスで「いろいろな国の擬音語・擬態語集め大会」など、みんなが楽しみながら様々な文化を理解できる活動を行うとよいでしょう。

事例2

水のかさをはかろう

対象	小学校2年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	日本生まれ、日本育ち。家庭ではほとんど中国語で話す。日本語の日常会話はできるが、自分の気持ちを言葉で表現することが苦手である。保護者は、日本語の日常会話は少しできる程度で、通訳が必要。			【話す】	4
				【読む】	4
				【書く】	4
				【聴く】	4



年間指導計画（概要）

指導目標	<p>【話す】 自分の気持ちを、言葉にして相手に伝えることができる。</p> <p>【読む】 教科書に出てくる言葉の意味を、理解することができる。</p> <p>【書く】 ひらがな、カタカナ、数字、1年生の漢字を書くことができる。</p> <p>【聴く】 話の内容を、時間の流れに沿って理解することができる。</p>	
	日本語	教科（算数）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことや感じたことを話したり、質問されたことに自分で考えて答えたりする。 既習の漢字が混じった文を読んで、大意を理解する。 知っている語彙や1年生で学習する漢字を使って、短文を書く。 複数の文を、1文にまとめて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「長さ」「水のかさ」などの学習を通して、量感を養い、単位を使って長さやかさを表す。 「表とグラフ」「時刻と時間」「1000までの数」などの学習に意欲をもち、各概念を理解して使う。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄やできごとを、相手に分かるように、順番に話す。 物語や説明文を読み、大意を理解する。 既習の語彙や2年生で学習する漢字を使って、短文を書く。 時間の流れに沿って、起こったできごとを文章に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「10000までの数」の学習を通して、概数で表す便利さを知り、生活の中で使う。

指導による到達点

評価	<p>【話す】 身近なできごとを意欲的に話すことができるようになった。</p> <p>【読む】 物語に興味を持って読むことができ、大意を理解することができた。</p> <p>【書く】 書けるようになった日常語彙が増えた。</p> <p>【聴く】 話の内容を、時間の流れに沿って理解することができた。</p>
----	---



指導例（概要）

1 教科・単元名

算数・「水のかさをはかろう」

2 目標（教科）

- 水のかさを測る単位「L」を理解する。
- 1 Lの量をイメージすることができる。
- 1 L = 10 dLであることがわかる。

目標（日本語指導）

日本語としての「数字の読み方」「数詞」「単位」について語彙を習得する。
説明のための文型「これは～です。」「□ = △です。」「だから、～です。」を習得する。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> やかんに 入る 水の かさを はかってみよう。 </div>		
①やかんに入る水のかさを予想する。 ②「1デシリットル」「何杯分」「1ばい」「2ばい」「3ばい」「4ばい」…の言い方を練習する。 ③1 dLのますを使って測る（例：1 dLますで14杯分）。 ④もっと簡単な測り方を考える。 大きなかさをはかるときは、1 Lのますを使うとよいことを知る。 ⑤1 Lますは、1 dLます何杯分なのか確かめる。1 Lは1 dLの10杯分。1 L = 10 dL ④やかんの水のかさは14 dLであり、1 L 4 dLでもあることを知る。 ⑤カードを使って、「〇L〇dL」を、「〇dL」に戻して言う練習をする。 説明の型を使ってノートに書き、言えるように練習する。 ⑥カードを見せながら話す。	<ul style="list-style-type: none"> •やかんの大きさと1 dLますを見せる。 •「はい」「ばい」「ばい」に気をつけて答えられるようにする。 •ますが小さく、時間と手間がかかることに気づかせる。 •「L（リットル）」を声に出して読んだり、空書きをしたりする。 •1 L = 10 dLを黒板に明示し、ノートに書かせ、音読させる。 •1 mmが10集まって1 cmの単位になったことを想起させる。 （説明の型） 「これは、〇L〇dLです。」 「1 L = 10 dLです。」 「だから、〇dLです。」 •声に出して読ませる。 •たくさんの友だちと交流するよう促す。言い方を反復させる中で体得させる。 	1 dLます 水の入ったやかん やかんの水が入る分の1 dLます 1 Lます 「1 L = 10 dL」の掲示用カード ますの絵だけ描かれたカード（色々な数字で言えるように何種類も用意する。） 説明の定型文（数字の入るところは空けておく。）



事例3

あいうえお作文をつくろう

対象	小学校2年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	日本生まれ。幼少期2～3年中国に滞在。家庭では、日本語で話している。コミュニケーションに課題があり、気持ちを言葉で表現することが苦手である。作文において、助詞の使い方や文章構成に課題がある。	【話す】	3		
		【読む】	4		
		【書く】	3		
		【聴く】	5		



年間指導計画（概要）

指導目標	<p>【話す】 経験したことを通して、そのとき感じたことを話すことができる。</p> <p>【読む】 物語文や説明文などを読み、内容をおおまかに理解することができる。</p> <p>【書く】 よく使う単語や定型表現、基本文型などを使って、助詞の使い方に気を付けて書くことができる。</p> <p>【聴く】 話している人に注意を向けて聴くことができる。</p>	
	日本語	教科（国語）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 自分で文章を読み、その内容についてある程度理解する。 絵本の読み聞かせを行い、興味をもてるようにする。 5W1Hと助詞に気を付けて、楽しく文づくりをする。 自分の気持ちと、その表現の仕方を知る（「いま、どんな気持ち」カード）。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の漢字を読み、書く。 単語を理解できるように、具体物や映像で確認し、理解する。 わからない言葉について、友だちや教員に質問したり、絵辞典で調べたりする。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちと、どうしてそんな気持ちなのかを話すことができる。 絵本の挿絵や絵の支援を得て、内容をおおまかに理解する。 5W1Hと助詞に気を付けて、場面にあった文づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の漢字を読む。 文章の内容を理解できるように、具体物や映像で確認し、理解する。 物語に出てくる登場人物の気持ちを想像して工夫して音読をする。



指導による到達点

評価	<p>【話す】 自分の気持ちを、少しずつ言葉にして表現できるようになった。</p> <p>【読む】 読み取り問題について、パターン化したものを解けるようになった。</p> <p>【書く】 意欲的に文づくりに取り組み、助詞を正しく使えることが増えた。</p> <p>【聴く】 わからないことは質問し、その説明を理解することができた。</p>
----	---



指導例（概要）

1 教科・単元名

国語・「あいうえお作文をつくろう」

2 目標

楽しんで文をつくる。助詞に気を付けて文をつくる。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①「あいうえお作文」の例を示し、そのやり方を理解する。	・児童が意欲を持てるように楽しい作文を提示する。	ホワイトボード、マーカー
②あ・い・う・え・お、それぞれが始めにくる言葉集めをする。	・作文することを念頭において、場所や時間、人を表す言葉も出るよう促す。	
③集めた言葉の中から、作文に使う言葉を選び、短冊に記入する。	・5W1Hを意識させた文をつくるように助言する。	「いつ」「どこ」「だれ」「何」「どうした」のカード
④選んで書いた言葉を順番に並べ、つなぎの言葉を書いて文にする。	・適切な助詞が選べるよう支援する。	白紙の短冊 助詞のカード（は・が・に・へ・を・で・と・の）
⑤文を読んで発表する。		マグネット



コラム② 保護者との信頼関係が基本



渡日した保護者は、慣れない日本での生活の中で、様々な思いを抱えています。保護者と信頼関係を結ぶために、まず、仕事や生活の悩みや苦勞、子どもへの願いなどを受けとめ、保護者の思いに寄り添いましょう。保護者懇談会等には通訳者を派遣するなどの支援を行い、母語を介してしっかりと情報が伝わるようにしましょう。また、学校として国際理解の学習に取り組んだり、周りの保護者の理解を得るような保護者交流会を行ったりすることも、信頼関係の構築につながります。

事例4

ありの行列

対象	小学校3年	第一言語	フィリピン語	DLAステージ	
背景	2歳で渡日。幼稚園等の経験はない。家庭では、日本語とフィリピン語の両方で会話している。語彙が少なく、音読に課題があるため、休み時間や放課後に、読む練習をしている。また、作文に対して苦手意識を持っている。			【話す】	4
				【読む】	2
				【書く】	2
				【聴く】	3



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す】身近なできごとについて、様々な会話に積極的に参加することができる。 【読む】語のまとまりに気をつけながら、音読することができる。 【書く】支援を得て簡単な作文を書くことができる。 【聴く】身近な内容についての語彙や表現を大まかに理解することができる。	
	日本語	教科（国語）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 身近な日常語彙を使って、話し、質問に答える。 支援を得て、興味のある読み物や教材文を読む。 日常語彙を使って、自分の意見や感想を書く。 身近な内容の話の単語や表現を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄など、自分の思いや考えをまとめて話をする。 在籍学級の進度にあわせて教材文（リライト教材を含む）を、文や意味のまとまりに区切って読む。 在籍学級の進度にあわせて、新出漢字を習得する。書き順や字形に注目し、書きまちがいに注意する。 つながりのある文章を書く。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 身近な日常語彙や教科書で学んだ語彙を使って、まとめた話をする。 言い換え表現などを用いた学年相応の教材文を読み、要旨を捉える。 テーマに合った適切な単語を使って文を書く。 授業で用いる語彙・表現について、支援を得て、ある程度理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄など、相手にわかるように、自分の思いや考えをまとめて話す。 2年生の国語の教科書の教材を音読し、段落、内容を読み取って、接続詞、慣用的表現などを使って短文作りをする。 目的や必要に応じて適切な語彙を使って、課題作文を書く。

指導例

指導による到達点

評価	<p>【話す】身近な事柄について、まとめて話すことができた。</p> <p>【読む】語のまとまりに着目しながら、ゆっくり音読することができた。</p> <p>【書く】下学年の漢字について正しく書くことができた。まとまりのある文を書くことができた。</p> <p>【聴く】身近な内容の話を聞いて、理解することができた。</p>
----	--



指導例（概要）

1 教科・単元名

国語・「ありの行列」 ※小学3年生用国語教科書（光村図書出版）

2 目標

範読を聞き、すらすら読むことができる。

新出漢字（他・研究）の読み方を知る。

この説明文で明らかにしようとしている「問題」とウィルソンの実験や研究を、文中からさがす。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①ありについて話をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ありを見た経験を話し合い、興味を持たせる（ありやその行列を見た経験のない児童もいるため、図鑑等でイメージを持たせる）。 	「ありの行列」のリライト教材 （→18ページ参照） ありの図鑑
②1文ずつ区切って範読を聞き、繰り返して読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容を捉えさせる。 	
③新出漢字の読み方を知る。 「他」…ほか、「研究」…けんきゅう	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードを利用し、読み方、筆順、形に着目させる。 	ホワイトボード、マーカー
④段落を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・段落ごとに1字下がっていることを伝える。 ・話のまとまりごとに、段落があることに気づかせる。 	
⑤第1、2段落を読み、話の「問題」を見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ」という言葉に着目させる。 ・色鉛筆などで、キーワードに印を付ける。 	
⑥ウィルソンがしたことを見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ・第3、4段落を読ませ、「はじめに」「次に」という言葉に注目させる。 	
⑦本文を再び読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で読むのが難しい場合は支援する。 ・今日の学習で、わかったことを話す。 	



事例5

読書活動

対象	小学校3年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	日本生まれ。2歳から5歳まで中国で暮らした後、日本の保育園に入園した。家庭では中国語で話をする。中国語でごく簡単な読みができる。日本語のイントネーションに課題がある。父母ともに挨拶などごく簡単な日本語は理解できる。			【話す】	4
				【読む】	4
				【書く】	3
				【聴く】	4



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す・聴く】 質問を聞いてその内容を理解し、ある程度まとまった文で答えることができる。 【読む】 学年相当の読み物を読み、大まかに内容を理解することができる。 【書く】 自分で書いた文章を見直し、文章を書くことができる。	
	日本語	教科（国語）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対する目標を設定し、多くの本から目標に合った本を選ぶ。 1学年下の読み物を読み、大まかな内容を理解する。 内容を理解した読み物の大まかなあらすじを短い文で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 誤字、脱字などに気を付けてあらすじを書く。 時系列に気を付けて書く。 『きつつきの商売』『もうすぐ雨に』など物語文の挿絵を参考にし、登場人物が何をしたか捉える。 『こまを楽しむ』の写真を参考にし、こまの種類とその楽しみ方を理解する。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対する目標を設定し、多くの本から目標に合った本を選ぶ。 学年相応の読み物を読んで、大まかに理解する。 あらすじを書く時、連文、複文の活用に注意しながら書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 語句や漢字について、前後の文章、挿絵、写真から、推察して読み、大まかな内容を理解する。 自分で書いた文章を読み直し、より伝えたい表現に変える。 『ちいちゃんのかげおくり』『三年とうげ』の挿絵や前後の文章から主人公の気持ちを想像する。 『すがたをかえる大豆』の大豆食品の名前と調理の仕方の工夫を理解する。

指導例

指導による到達点

評価	<p>【話す・聴く】 最後までしっかり話を聞き、質問に正しく答えることができた。</p> <p>【読む】 自分から進んで読書する意欲が高まった。読書習慣を確立することができた。</p> <p>【書く】 自分で書いた文章を見直すことで、誤字脱字が減ってきた。また、接続詞や文の相互の関係を意識するようになり、複文を使用して、自分が伝えたい文章を書くことができた。</p>
----	--

※上表にある『教材』はいずれも小学3年生用国語教科書（光村図書出版ほか）



指導例（概要）

1 教科・単元名

国語・読書活動

2 目標

読書に集中し、読後にあらすじや感じたことを話したり書いたりする。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等		
①好きな本を選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> やさしすぎる本を選ばないように、前向きな声かけをする。 つぶやき読み、黙読など、読みやすい方法を選ばせる。 読書に集中できる環境を作る。 読字につまずきのある時は、教員と一緒に読んだり、読み聞かせをする。 話につまずいた際、「誰がでてきた?」「どんなことをした?」など本の内容を引き出す声かけをする。その際、あらすじのキーワードとなるフレーズは言わない。 話したあらすじの内容に不足していた事柄、行間をとらえさせる事柄について発問する。 書けない児童には、あらすじを思い出させる声かけをする。 丁寧な字で書くように声かけをする。 ここでは、あえて書き間違いは修正しない（あらすじを再現することに重点をおく）。 	<p>児童一人ひとりの興味、レベルに応じた本をいくつか用意しておく。</p>		
②選んだ本を読む。				
③あらすじを教員に話す。				
④内容について深める。				
⑤話したあらすじを書く。			あらすじを書く紙	
⑥あらすじを書いた紙とは別の紙（付箋やメモ用紙）にタイトル、作者、読んだ日付を書く。			タイトル、作者、読んだ日付を書く付箋やメモ用紙（児童の書く意欲が高まる形や柄のもの）	
⑦教員が本と児童を撮影し、画像をプリントアウトする。			レイアウトを考えて貼るように声かけをする。	シール、付箋等
⑧あらすじ、タイトル、作者、日付、写真をアルバムに貼る。			前向きに内容を深めるコメントを記入する。	アルバム



事例6

災害からまちを守るために

対象	小学校4年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	幼稚園年長の時に来日。家庭では日本語を話す。日頃から意欲的に読書をし、読んだ内容を再話することができる。計算に対しては苦手意識が強い。保護者は、単語などの簡単な日本語を話すことができる。	【話す】	4		
		【読む】	3		
		【書く】	3		
		【聴く】	3		



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す】伝えたいことを順序立てて話すことができる。 【読む】文中の文字や単語を確実に目で追って読むことができる。 【書く】助詞・語順・誤字脱字に気を付けて書くことができる。 【聴く】話し手の話す内容の主旨を理解することができる。	
	日本語	教科（社会）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 単語カードや絵辞典を活用して、日常よく使う身近な語彙を増やす。 語順や誤字脱字などに気を付けながら作文する。 「もの」についての説明を聞き、その大意を聞き取る。 短文を読み、登場人物や何についての話なのかを口頭で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書にでてくる身近な言葉や生活に必要な単語を挿絵、写真や図などから理解する。 教科書に出てくる用語を身近な言葉に代えて、それをういて会話し、作文をする。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 単語カードや絵辞典を活用し、知らない単語の紹介をする活動を通して、語彙を増やす。 助詞や誤字脱字などに気を付けて作文し、発表する。 「もの」についての説明を聞き、その大意を理解して、説明する。 短文を読み、登場人物や何についての話なのかを口頭で確認し、発言したことを文章に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の都道府県の名称、配置を覚える。 教科書にでてくる用語の意味を理解し、それをういて会話をし、作文を書く。

指導例

指導による到達点

評価	【話す】助詞の使い方や事柄の順番を意識して話すようになった。 【読む】文章を指で追いながら、丁寧に意味を理解して読むことができた。 【書く】自分の作文を再度読み直し、まちがいに気づいて訂正できることが増えた。 【聴く】話し手の話す内容をよくきき、短い話を再話することができた。
----	---



指導例（概要）

1 教科・単元名

社会・「災害からまちを守るために」

2 目標（教科）

「救急車」「消防車」「火災」「消火器」「119番」「消防署」「指令室」など、内容を理解するために必要な語彙とその意味を理解する。

目標（日本語指導）

「〇〇が□□する。」という主語述語の文を通して、消防署などの役割を短文で書く

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①日本地図パズルをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回1地方のみに限定して行うことで、集中して覚えられるよう支援する。 ・各都道府県に関係した話をする中で、興味をもちながら覚えられるようにする。 	日本地図パズル 各都道府県の特産品等の写真やカード、実物等
②めあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>だれが</u>何の仕事<u>をしている</u>かしらべよう」と提示し、主語述語に着目して調べ、文章で記述させる。 	めあてカード
③教科書を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章に登場する人物に注意させる。 	「消防署」「指令室」等の言葉カード
④消防署と指令室の役割についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書内に書かれてある「〇〇が□□する。」に着目して文を作らせる（または、単語を書いたカードを順番に並べさせる）。 	「が」「する」や単語等を書いたカード
⑤ふりかえりをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学習した言葉を1つ以上用いて書かせる。 	



事例7

小数のたし算とひき算

対象	小学校4年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	小学校入学直前に来日。家庭では中国語を話す。音読、漢字や計算などは得意であるが、文章の理解は難しい。分からない言葉がまだ多いため、発表は苦手である。保護者は日本語である程度の日常会話ができる。			【話す】	3
				【読む】	3
				【書く】	3
				【聴く】	3



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す】身近なテーマに沿って、相手に分かるように話すことができる。	
	【読む】教科の学習で学ぶ単語や文章の大まかな内容を理解することができる。	
指導目標	【書く】教科書に出てくる単語を用いた簡単な文を書くことができる。	
	【聴く】身近なテーマに沿った簡単な話を聞いて大まかな内容を理解することができる。	
	日本語	教科（算数）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄を相手に分かるように話す。 テーマに沿って、習った漢字を使って短い文章を書く。 文章をイメージしながら読み進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 加減の文章題を読んで、大まかな意味を理解し、その内容を絵や図で表す。 既習の算数の学習用語の意味を理解する。 長さ、面積、量の意味を理解し、区別できる。 学習活動に必要な日本語を理解する。
後期	<ul style="list-style-type: none"> テーマに沿って、相手に分かるように話す。 課題に沿って作文を書く。 文章の中で、重要語句を辞書で調べ、自分の言葉で説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 乗除の文章題を読んで、大まかな意味を理解し、その内容を絵や図で表し、短い言葉で説明する。 算数の学習用語の意味を理解し、説明する。 解き方を言葉で説明できるようにする。 学習活動に必要な日本語をしっかりと理解する。

指導例

指導による到達点

評価	【話す】身近な事柄を相手にわかるように話すことができた。
	【読む】わからない単語を国語辞典で調べ、読むことができた。知っている単語の意味を自分の言葉で説明できた。
	【書く】作文を書くときの語彙数が増えた。
	【聴く】短い話をしっかりと聞いて、内容を把握することができた。



指導例（概要）

1 教科・単元名

算数・「小数のたし算とひき算」

2 目標（教科）

文章問題を絵や図に表すことができる。

目標（日本語指導）

算数の文章問題で立式するときに必要な言葉を見つけることができる。

身近なことを相手にわかるように話し、文章に表す。

「〇〇から△△まで」「(歩く) →歩いて行きました」の形を学習する。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①よく遊びにいく場所と、そこが家からどのくらいの距離があるのか様子を話す。 ②話したことをもとに文として書く。	<ul style="list-style-type: none"> 質問をして、内容を膨らませる。 自分の生活と算数を結びつけて考えられるようにする。 使う文型を示し、文を作らせる。 「〇〇から△△まで」 「歩く＋行きました」 →歩いて行きました」 「走る＋帰りました」 →走って帰りました」 	作文ノート
③文章問題を解く。 ・文章問題を読む。		文章問題を提示
<p>てるさんは、家からゆう便局まで 0.61 km を走って行きました。帰りは遠まわりをして、ゆう便局から家まで 0.73 km 走って帰りました。てるさんは合計何 km 走りましたか。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> 絵や図に表す。 立式する。 計算し、答えを出す。 練習問題を解く 	<ul style="list-style-type: none"> 式を立てるときに必要な言葉を見つけさせる（「問題がたずねていることは何か」「なに算すればいいかがどの言葉でわかるか」など）。 筆算の際は位そろえに留意させる。 	
④自分で文章問題をつくる。		

【アドバイス】

指導者が板書やカードに文章を書くときは、文節等の途中で改行しないように気をつけましょう。また、児童生徒の日本語能力に合わせ、文節ごとに間隔をおくことや、使用する漢字にも配慮しましょう。

てるさんは、家からゆう便局まで 0.61 km を走って行きました。



てるさんは、家から ゆう便局まで 0.61 km を 走って行きました。



事例8

がい数

対象	小学校4年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	日本生まれ。生後6カ月で中国へ帰国。幼稚園年長から小学1年生まで日本で生活、その後2年間中国の小学校に通い、今年再び渡日。家庭では主に中国語で会話する。簡単な日常会話はできるが、読解や作文は難しい。母親は日本語で日常会話が少しできる。			【話す】	3
				【読む】	3
				【書く】	3
				【聴く】	3



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す】 日常語彙を使って、自分の思いを話すことができる。 【読む】 教科書の文章を読み、大まかに理解することができる。 【書く】 3年生までの漢字を使って、短い文章を書くことができる。 【聴く】 教員の話をしっかり聞きとり、大意を理解することができる。	
	日本語	教科（算数）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 3年生までの漢字を学習する。 『ひろこさんのたのしいにほんご1』（※）を使って学習し、基本の文型、内容の把握と音読について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「角とその大きさ」「1けたでわるわり算の筆算」の説明や問題文の分からない漢字などにルビをふり、大意を理解する。 「小数」「2けたでわるわり算の筆算」の問題を解けるよう単語の意味を理解する。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 4年生までの漢字の確認テストを行いながら、反復練習する。 4年生の国語の教科書（リライト教材を作成）について、おおまかな内容を理解する。 できごとや自分の思いを200字程度で日記を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「面積」「がい数」の説明や問題文の分からない漢字などにルビをふり、大意を理解する。 「小数の計算」「分数」「直方体と立方体」について、在籍学級での授業の進度よりも先取りして教科指導を含めた日本語指導を行い、問題を解くために必要な「学習言語」を習得させる。

指導例

指導による到達点

評価	【話す】 2～3語をつなげて話すことができた。
	【読む】 大きな声で文章を読み、おおまかに内容を理解することができた。
	【書く】 ふりかえりノートを書けるようになってきた。
	【聴く】 うなずきながら話を聞き、大意を理解することができた。



指導例（概要）

（※）『ひろこさんのたのしいにほんご1』
 → 出版されている既成の教材。45 ページ
 で紹介している『日本語習得の支援 —
 既成教材からテキストを選ぶときのため
 に』にも掲載しています。

1 教科・単元名

算数・「がい数」

2 目標（教科）

概数の2つの表し方がわかる。

四捨五入により上から一けたと二けたの概数にすることができる。

目標（日本語指導）

一けた、二けた、三けたの意味と言い方を理解する。

「上から〇けた」「概数で表すと ～になります」等の言い方で答えられる。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①前時の復習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを確認する。 四捨五入の仕方を確認させる。 	前時のプリント 掲示用カード（答え方の例を書いたもの）
②本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 上から 〇けたの がい数で 表す </div>		
③「上から」「一けた」「二けた」「三けた」の言い方と意味を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 「ひとつ、ふたつ、みっつ」の言い方に近いことに気づかせる。 	
④上から一けたの概数で表す方法を確認する。 上から一けたの概数で表す（練習する）。	<ul style="list-style-type: none"> 一けた目の数字やその下のけたの数字などを確認しながら、四捨五入させる。 	
⑤上から二けたの概数で表す方法を確認する。 上から二けたの概数で表す（練習する）。	<ul style="list-style-type: none"> 二けた目の数字やその下のけたの数字などを確認しながら、四捨五入させる。 	
⑥「上から〇けたの概数で表すと ～になります」の言い方で答える（練習する）。		
⑦本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめを読ませる。 	
⑧練習問題をする。		
⑨家庭学習の説明をする。		



事例9

これからの食料生産

対象	小学校5年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	日本生まれ。生まれてすぐ中国に帰国し、小学校3年生の3学期に父と2人で再渡日した。中国にいた際は、日本語をほとんど学習していないが、ある程度は覚えていて日常会話はできる。父は少しだけ日本語を話せる。	【話す】	4	【読む】	4
		【書く】	3	【聴く】	3



年間指導計画（概要）

指導目標	<p>【話す・聴く】 質問に対して理解し、短文で答えることができる。</p> <p>【読む】 5年生の教科書の内容をおおよそ理解し、語のまとまりに気をつけて読むことができる。</p> <p>【書く】 様々な形式（新聞など）で、簡単な文を書くことができる。</p>	
	日本語	教科（社会）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 自分の言葉で発表する。 教科書の言葉を、調べながら読む。 学習したことを簡単な文で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 図やグラフに表されていることを、自分の言葉で話す。（資料の読み取り方の学習） <p style="text-align: right;">指導例 →</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会科でよく使う用語を調べながら読む。（調べ方の学習） 今日の学習内容のまとめを自分の言葉で書く。（振り返り方の学習）
後期	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの意見を聞き、自分の考えを短い文章にまとめ発表する。 教科書の言葉を、調べながら読む。 読んで理解した内容を、簡単な文章で説明する。 様々な形式で、学習内容を簡単な文章でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペア、班学習でお互いに話し合い、まとめを発表する。（課題発見・解決学習、表現方法の学習） 社会科でよく使う用語を調べながら読む。（調べ方の学習） 理解した内容を、自分の言葉で説明する。 単元終了後に新聞を作り、振り返りシート等を作成する。（表現方法の学習）

指導による到達点

評価	【話す・聴く】 ペアや班で友だちの意見を理解し、自分の考えを短文で話すことができるようになった。
	【読む】 わからない言葉を辞書で調べ、文節に気をつけて読むことができた。
	【書く】 読んだ話や学習した内容を、短い文で適切にまとめることができるようになった。



指導例（概要）

1 教科・単元名

社会・「これからの食料生産」

2 目標（教科）

図表の読み取り方を理解する。

目標（日本語指導）

事実と意見を区別して文を書くことができる。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①食べ物の生産地や、輸出入について知っていることを発表する。	・母国である中国の食料の輸出入情報を調べられるように資料を用意する。	中国の農業等について書かれた本など
②日本の食料輸出入に関する図表を見て、読み取れることを発表する。	・インターネット等で外国の食料の輸出入情報を調べる環境を整えておく。	パソコン、タブレット等
③教科書「日本の食料輸出入」に関する内容のページを音読し、何が書いてあるか、自分の言葉で説明する。	・表題の確認、凡例等の確認、読み取りの順に教員から質問する。 ・予め音読の宿題を出しておく。 ・授業では2回音読させ、誤読、文節に注意する。 ・説明の日本語が適切か確認する。	教科書や資料集 電子黒板、実物投影機 ヒントとなる単語やキーワードを書いたカード
④図表を読み取って、思ったことを短文で書き、発表する。	・事実（書いてあること）と意見（思ったこと）の区別に注意させる。	
⑤聞き取りミニテスト	・本時に学習した単語やキーワードのテストをする。 ・漢字、カタカナ、数字など様々な文字を交えて出題する。	プリント



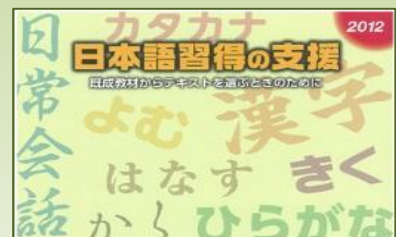
【紹介】

『日本語習得の支援 —既成教材からテキストを選ぶための—』

（平成25年3月 大阪府教育委員会（地域教育振興課）発行）



既成の教材から日本語指導で使用するテキストを選ぶ際の参考になる冊子です。出版社等が既に発行している教材・資料等の名称、価格、概要等をおおよそ日本語能力別、4技能別に参照できる項目立てで紹介しています。「子どものための教材」「支援者用参考書」も紹介しています。（大阪府教育委員会のWebページからダウンロードすることができます。<http://www.pref.osaka.lg.jp/chikyokyoiku/osyaberi/>）



事例10

世界で一番やかましい音

対象	小学校5年	第一言語	ベンガル語	DLAステージ	
背景	小学2年生の初めまで日本で学校に通い、その後3年間、母国の学校で学年相応の学習をした。小学5年から再び日本の学校で学ぶ。家庭ではベンガル語を話す。日本語の日常会話はできる。ひらがなは読み書きできるが、カタカナ、漢字はほとんど覚えていない。保護者は日本語での会話がある程度できる。	【話す】	4		
		【読む】	3		
		【書く】	2		
		【聴く】	4		



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す・聴く】話す、聴く力を文字とつなげることができる。 【読む・書く】ひらがな・カタカナの読み書きができる。 【読む・書く】4年生までの漢字を習得する。	
	日本語	教科（国語）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 絵カードを活用し、語彙を増やし、ひらがなや、カタカナを書く。 1、2年生の漢字を使って読み書きができ、それらを使って短文を書く。 教科（特に算数や理科）の学習に必要な日本語を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援を得て、教科書の漢字に読み仮名をつけ、読む。 文章の内容が理解できるように、具体物（映像）や、動作などで補い、わかりやすい言葉に置き換える。 感想や、考えを話す。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年生の漢字が部首になっていることを知り、3、4年生の漢字の読み書きを練習する。 作文を書くときに、習った漢字は使えるようにする。 教科（特に算数や理科）の学習に必要な日本語を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書で調べ、教科書の漢字に読み仮名をつけ、読む。 文章の内容が理解できるように、具体物（映像）や、動作などで補い、わかりやすい言葉に置き換える。 感想や、考えを話す。



指導による到達点

評価	<ul style="list-style-type: none"> 【話す】自分の考えをしっかりと話せるようになった。 【読む】4年生の漢字が少し読めるようになった。 【書く】話した自分の考えを、少し書けるようになった。 【聴く】聴いて理解できる語彙数が増えた。
----	--



指導例（概要）

1 教科・単元名

国語・「世界で一番やかましい音」 ※小学5年生用国語教科書（東京書籍）

2 目標

カタカナや1年生の漢字を書く。

場面の内容を理解し、本文に書かれている言葉を使って、話の内容を説明する。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①絵カードを見て、ものの名まえをカタカナで書く。	・絵カードを見て、その名まえを発音し、書かせる。	絵カード プリント
②これまでに習った1年生の漢字を確認する。	・覚えた漢字が増えたことをほめ、間違った漢字は家庭で練習をするように励ます。	
③山・川・木の漢字の意味と読み方、書き方を練習する。	・異なる読み方の言葉を見て、意味を確かめる。	漢字練習プリント
④ひとつの場面を音読する。	・範読した後、少しずつ区切って読み、続いて児童に読ませる。 ・読めない漢字を確かめさせ、読み仮名を書かせる。	電子辞書
⑤わからない語句に線を引き、簡単な言葉に置き換えたり、映像や具体物で確認したり、動作化したりする。	・「わめく」「どなる」「家の戸」「おまわりさん」「けたたましい音」「自慢」などの語句の意味を確かめる。	絵カード パソコン
⑥場面を再話させる。	・重要語句を使って説明できるようにさせる。	



コラム③ 辞書の活用



母語が日本語でない子どもの中には、絵本など文字にふれる機会が少ない、あるいは保護者と十分に対話できていないなどの理由で、語彙が少ない場合があります。教科の学習においても、「わからないことはその都度きいていい」という環境とともに、そばに辞書や「絵辞典」を用意し、自分で調べればわかる」という経験を積むことが大切です。どの教科でもわからない言葉にであったときにすぐに調べる習慣を身につけさせましょう。あわせて、自分で辞書の見出し語に直せるようにするスキルも習得させましょう。

事例11

海の命

対象	小学校6年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	1年生で渡日。その後、年1回、1か月中国で生活する。家庭での会話は中国語のため、日本語の生活言語に課題がある。文章の読みや漢字の読み書きは定着してきたが、自分の気持ちや考えを伝えたり授業中に発言したりすることは難しい。	【話す】	2		
		【読む】	4		
		【書く】	3		
		【聴く】	3		



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す】口形や発音に注意して話すことができる。	
	【話す・読む】日常語彙（擬態語や擬音語、気持ちを表す言葉、助詞の使い方など）を増やす。	
指導目標	【書く】学級や学校の行事で経験したことや自分の思い・考えを、話したり書いたりして表現することができる。	
	【聴く】身近な内容の話を聞いて、大意を理解することができる。	
	日本語	教科（国語）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 身近な日常語彙を使って、体験したことを話す。 学年相応の読物教材について、大まかな内容を再話する。 100文字程度の自分の意見や感想を書く。 集中して先生の話聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> 母音の口形に注意し、単語を一音一音に識別して明瞭な発音で話す。 書き言葉と話し言葉の違いに気を付けて話す。 事物の説明や経験の報告などをする。 身近な事柄について、自分の思いや考えをまとめて話す。 簡単な作文を書く。
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や感想を説明する。 根拠を示しながら、自分の意見を相手に分かるように説明する。 200文字程度の自分の意見や感想を書く。 聴いた内容について感想や意見を話す。 	<ul style="list-style-type: none"> 尊敬語や謙譲語など、丁寧な言い方について理解する。 ペアやグループ、学級全体など、話し合う人数の組み合わせを工夫して話し合う。 物語文について、相手にわかるように、自分の思いや考えをまとめて話をする。 目的や必要に応じて適切な単語を使って、課題作文を書く。



指導による到達点

評価	【話す】発音や語のまとまりに気をつけ、適切な言葉で話すことができた。
	【読む】読み物を読んで内容を理解して、語彙を増やしていくことができた。
	【書く】文と文をつなげてまとまりのある文を書くことができた。
	【話す・聴く】ペアやグループなど、様々な場での話し合いで、相手の話を聞いたり自分の意見を話したりすることができた。



指導例（概要）

1 教科・単元名

国語・「海の命」 ※小学6年生用国語教科書（光村図書出版、東京書籍）

2 目標

教材文をすらすら読むことができる。

教材文を読んで登場人物の心情や場面の様子を捉える。

教材文について、自分の考えを持つ。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①本時のめあてを確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">主人公の心情の変化を捉え、それについて考えることができる。</div>		
②物語を通読する。	<ul style="list-style-type: none"> 一人で読むのが難しい場合は支援する。 教科書の文と会話文との違いに着目させる。 難しい言葉の意味については、内容から推測させ、また、それが正しかったのか国語辞典を使って確かめさせる。 	「クエ」の写真等、物語の情景を捉えやすくするための写真などの資料 国語辞典
③物語の山場を捉え、主人公の心情の変化について、そのきっかけ、理由を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 叙述をもとに、物語の山場を捉えているか確認する。 	
④書いたものをグループで読み合い、考えを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの考えを持っているか。 	
⑤交流したことをもとに、自分の考えを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 考えを交流することで、自分の考えを広げたり深めたりしているか。 	



コラム④ 日本語指導を通して子どもに寄り添う



取り出し指導や入り込み指導により、児童生徒にいていねいに関わっていると、担当教員がその児童生徒の話などから、その国の文化や習慣を知ったり、友だち関係や生活のことなどで困っていることを知ったりすることがよくあります。それらをきっかけに家庭訪問をすれば、家庭での児童生徒の様子や保護者の思いを知ることができます。日本語指導を通して、児童生徒に寄り添った生活全般に関わる支援は、日本語能力や学力の向上につながります。

事例12

形が変わる言葉に気をつけよう

対象	小学校6年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	小学校4年まで母国で就学。小学5年に渡日。家庭では、中国語と日本語で話をする。日常会話でコミュニケーションがとれるようになってきた。漢字と文章を書く力はついてきたが、語彙の少なさから、教科書の文章を読むには内容理解に課題がある。	【話す】	3		
		【読む】	3		
		【書く】	3		
		【聴く】	3		



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す】助詞を正しく使って話すことができる。 【読む】文の一つひとつを理解しながら読むことができる。 【書く】語彙を増やし、まとまった文が書ける。 【聴く】短い物語を聞き、正しく理解することができる。	
	日本語	教科（国語）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 伸ばす音、複合動詞、漢字を書く。 支援を得て、主語と述語、文末の言い方、助詞の使い方に気を付けて書く。 国語辞典と漢字辞典を使い、わからない言葉や新出漢字を調べる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 形が変わる言葉、動詞にそえて使う言葉、動詞の変換、形容詞の変換 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 『イースター島にはなぜ森林がないのか』（説明文）、『ばらの谷』（物語文）のそれぞれの構成や人物の心情をおおまかに理解する。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 文の組み立てを学ぶ。 形容動詞の変換を理解する。 複文を学ぶ。 慣用語を使う。 敬語を適切に使う。 詩と俳句を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 『海の命』（物語文）、『雨のいろいろ』（説明文）、『数え方でみがく日本語』（説明文）の構成や人物の心情を大まかに理解する。

指導例

指導による到達点

※上表にある『教材』はいずれも小学6年生用国語教科書（東京書籍ほか）

評価	【話す】助詞を使って、文として人に伝えられるようになった。
	【読む】文節が理解でき、音読は流暢になった。
	【書く】助詞や文末の変化などの学習によって、分からない単語を自力で調べることができ、書きたい文が書けるようになった。
	【聴く】助詞に着目しながら、文意を正しく聞き取れるようになった。



指導例（概要）

1 教科・単元名

国語・「形の変わる言葉に気をつけよう」

2 目標

文の中の動詞の形を終止形（辞書形）に変換でき、辞書で調べることができる。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①「泳ぐ」のいろいろな形を書き出して、それぞれの意味を確認する。	・「泳が（ない）、泳ぎ（ます）、泳ぐ、泳ぐ（とき）、泳げ（ば）、泳げ、泳ご（う）、泳い（だ）」の順に作り直す。	「泳ぐ」の例文を書いたプリント
②動詞変換表の例を見て、それを完成する。	・「書く」を例文とする。 中学校の「未然形…」などの用語を使わず、「あいうえお」順で表を作る。	「動詞変換表」のプリント
③『ばらの谷』の中の分からない言葉を辞書で調べる。		教科書から「ばらの谷」 「ひらがな表」カード 国語辞典



コラム⑤ 友だちとつなげる



日本語指導が必要な児童生徒は、日本の文化や習慣などを経験していないこともあり、日本語を流暢に話しているようでも、会話の内容を理解していないことが多くあります。授業中、「『こんなこともわからないのか』という反応をされたら、どうしよう」との思いから質問できず、よりわからなくなり、授業からどんどん遠ざかっていくことが考えられます。文字が読めない、言葉の意味や場面状況がわからないときに、周りの友だちに尋ねたり教えてもらえたりする関係を築くことは、当該児童生徒に安心感を与えるとともに、学習意欲にもつながります。子どもどうしの関係づくりや学習の場の雰囲気づくりも大切です。

事例13

新聞を読む

対象	小学校6年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	日本生まれ。知らない語彙や慣用表現は多いが、生活言語はほぼ話せる。段落などの意味を理解して、その内容を大体読み取ることができる。両親は中国語を使っているが、本人は中国語は少し聞き取れる程度。	【話す】	4		
		【読む】	5		
		【書く】	4		
		【聴く】	5		



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す・書く】 目的や意図に応じて、自分の考えを話したり、まとまりのある文章を書いたりすることができる。	
	【読む】 学齢に応じた読み物を読んで、おおまかに理解することができる。	
	【聴く】 聞き取った内容について、課題をつかんだり、まとめたりすることができる。	
	日本語	教科（国語）
前期	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな種類の文章を、辞書などを活用しながら読み、その意味を理解し、語彙を増やす。（説明文、物語文、手紙文、新聞記事、観察文など） 話題や内容にふさわしい語彙や表現を使い、ポイントをおさえて説明をしたり、自分の意見を言ったりする練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 在籍学級での国語の学習内容の復習、補習をする。 教科書の語句や慣用句の意味、文法を確認しながら、内容を理解し読めるようにする。
後期	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな種類の文章を、辞書などを活用しながら読み、その意味を理解し、語彙を増やす。（説明文、物語文、手紙文、新聞記事、観察文など） テーマに見合った語彙や表現、学年相応の漢字を用い、文章の構成を考えて、まとまりのある作文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 在籍学級での国語の学習内容の復習、補習をする。 教科書の語句や慣用句の意味、文法を確認しながら、内容を理解し読めるようにする。 ・新聞記事を読む。



指導による到達点

評価	【話す】 語彙や慣用表現などを適切に使えるようになった。
	【読む】 わからない語彙でも文脈等から推察できる力がついてきた。
	【書く】 自分の考えを、ある程度まとまった文章で書くことができた。
	【聴く】 一回の聞き取りで、その内容や重要な言葉について理解できるようになった。



指導例（概要）

1 教科・単元名

国語・「新聞を読む」

2 目標

新聞記事に親しむ。

記事の内容を読み取り、要旨をまとめて話すことができる。

語彙を豊かにする。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①今日の授業のめあてを確認する。	・日本語指導の中で新聞にふれる機会を持ち、世の中の出来事にも関心が持てるようにする。	新聞記事の拡大コピー（読みやすく、児童の興味をひきそよな記事などを日ごろからストックしておく） （※「NEWS WEB EASY」のサイトにニュースを簡単にした文章が掲載されている（→24 ページ「日本語指導資料等ダウンロード資料一覧」参照））
②新聞記事の文章を読む。 ア) 音読 イ) 黙読しながら、キーワードと思う言葉や文に赤線を引く。		
③記事の見出しや赤線を引いたキーワードをヒントに、読んだ記事の概要を話す。		
④わかりにくい語句の意味を国語辞典で調べる。	・具体物は写真で提示する。	国語辞典 パソコン（写真提示のため）
⑤ワークシートの問題を読み、答える。	・答えあわせをし、必要に応じて説明を補足する。	ワークシート（5問程度の簡単な質問と、感想などを書くスペース）
⑥もう一度、新聞記事を音読する。		
⑦記事に対する意見や感想をまとめ、疑問に思ったことを話し合う。		



コラム⑥ ユニバーサルデザインの活用



ユニバーサルデザインの考え方を活用することで、日本語指導を効果的に行うことができます。例えば、「教室掲示」や「黒板掲示」で1時間の学習の流れを視覚化すると、学習の見通しが立つだけでなく、言葉を補う絵等により理解しやすくなります。

事例14

1次関数

対象	中学校2年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	中国生まれ、中国で就学し、小学4年生を修了して渡日。両親ともに中国人で、家庭内は中国語で話す。学習語彙も一定身につけている。日本語での日常会話や文字の読み書きはできるが、読解や作文は課題がある。			【話す】	4
				【読む】	3
				【書く】	3
				【聴く】	4



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す】 問題の内容や解答の道筋を自分で説明することができる。 【読む】 問題の意味や教科特有の語彙・言い回しを理解することができる。 【書く】 教科特有の語彙や言い回しを正しく書き表し、解答を作成することができる。 【聴く】 教員の説明を聞き取って理解することができる。	
	日本語	教科（数学）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な数学の用語や言い回しの定着を図る。 各単元の用語や言い回しを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の復習 式の計算（文字を用いた式を計算したり変形したりする。） 連立方程式（解き方を理解し活用する。） 1次関数（二つの数量の変化や対応について理解し、式・表・グラフと関連づける。）
後期	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の用語や言い回しを理解する。 定義・定理で用いられる語彙、証明する際の言い回し等を理解し、説明できるようにする。 確率の意味を理解し、自分でも説明ができるようにする。 応用問題など文章を理解し、解答できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 平行と合同（平行線の性質や図形の合同、証明の方法を理解する。） 三角形と四角形（三角形や平行四辺形の性質について論理的に確かめる。） 確率（確率の意味を理解し、それを用いて不確定な事象をとらえ説明する。） 問題演習（簡単な問題から繰り返し解き、応用問題を解く。）

指導例

指導による到達点

評価	【話す】 単文での説明ができるようになった。
	【読む】 学齢相当の語彙はほぼ定着した。
	【書く】 筆記テストの記述問題で、解答を正しくかけるようになってきた。
	【聴く】 一部、中国語での支援を得ながら、日本語での文意を理解できるようになった。



指導例（概要）

1 教科・単元名

数学・「1次関数」

2 目標（教科）

1次関数の特徴や変化の割合の意味を理解する。
グラフの切片と傾きを理解し、グラフを書くことができる。
式とグラフの関係を理解する。

目標（日本語指導）

数学の用語を用い、説明を書くことができる。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①座標について復習する。	<ul style="list-style-type: none"> • x と y の対応表から、座標に点をとる。 • 1次関数のグラフが、その式をみたす x、y の値の組を座標に持つことを確認する。 • これらの数学用語や特有の言い回し、問題文の意味が理解できているかを、簡単な問題を解かせたり、母語で説明させたりして確認する。 	プリント
②2つの変化の量を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> • わかりやすい身近な例、具体的な事柄を例示する。 （例）電話の料金 切片…基本料金、傾き…通話料 	教科書 日中辞典
③グラフの書き方、特徴を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> • 変化の割合、切片、傾き、式を相互に関連づけて、式とグラフの関係を理解させる。 • これらの数学用語の概念が理解できているか、母語で確認する。理解できているようであれば、読み方を指導し、声に出して読ませ、ノートに書かせて日本語での定着を図る。 	プリント
④1次関数を利用した応用問題を解く。	<ul style="list-style-type: none"> • 理解度に合わせ、簡単な問題ばかりにならないようにする。 • 問題文の日本語が理解できているか、語彙や言い回しを一つ一つ確認させる。 • 本時に学んだことを振り返り、日本語で説明させる。 	問題集



事例15

言葉の力

対象	中学校2年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	中国生まれ、小学校5年生の9月に編入。家庭内の会話は中国語。中国語の文章を読んだり書いたりすることができる。日本語の語彙もふえてきたが、文章を読んで理解したり、書いたりすることは苦手である。			【話す】	3
				【読む】	3
				【書く】	3
				【聴く】	3



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す】 リライト教材等で内容を理解し、その内容を話すことができる。	
	【読む】 漢字を読み、その意味と対応させながら、教科書を音読し、日本語のリズムをつかませ、獲得語彙数を増やす。	
指導目標	【書く】 日常的な事柄を単文、重文で書くことができる。	
	【聴く】 教員の話を中心して最後まで聞いて、大意を理解することができる。	
	日本語	教科（国語）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 日本語のリズムに注意し音読練習をする。 指示語、接続詞等、文法を正しく使う。 	<ul style="list-style-type: none"> リライト教材を使って、文章の理解力をつける。 漢字の読み書きの練習を行う。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 日本語のリズムに慣れさせ音読練習をする。 単文から接続詞、指示語を使った重文づくりを行う。複雑な文章を理解し、解答できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> リライト教材のレベルを様々に工夫することで、理解力を深める。 指示語、接続詞を意識させながら、指示内容を抜き出し、まとめる。 抽象度の高い文章、心情を表す表現、詩的な表現について理解する。

指導による到達点

評価	【話す】 リライト教材の内容を理解し、伝えることができた。
	【読む】 音読を通して、日本語のリズムがつかめてきた。リライト教材を読み、内容を大まかに理解することができた。
	【書く】 接続詞を使って重文を書けるようになった。
	【聴く】 教員が話す内容の大意を理解することができた。



指導例（概要）

1 教科・単元名

国語・「言葉の力」 ※中学2年生用国語教科書（光村図書出版）

2 目標（教科）

文章の仕組みを理解するとともに、内容の理解を深める。

目標（日本語指導）

理解した内容を段落ごとに接続詞や指示語を使い、単文、重文で書けるようになる。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①教員の範読を聞いてから文を読む。 ②文節を意識しながら、文ごとに読む。 ③段落（場面）ごとに音読し、内容を理解する。 ・言葉とそれを使う人との関係を考える。 ・志村さんの話を通して、桜の色は木全体の活動から生まれることを知る（意外性に気づかせる）。 ・桜の色と木全体の活動は、言葉を使う人の人間全体を表すことと同じであることに気づかせる。 ※（③の中で） ・対比（たとえ）の仕組みを理解する。 ・指示語、接続語について学ぶ。 ④全体を音読し、場面ごとに内容をまとめる。	・読み方や意味が分からないところに線を引き、電子辞書等で調べる。 ・生徒の読みをチェックする。 ・次のことに気づかせる。 → 言葉はその人の人間全体を表している。 → 桜色に染めるためには、桜の花びらではなく、黒っぽい色の幹の皮を使うこと。 → 言葉の一語一語もさくらの花びら一枚一枚と同じである。一本の木全体が花びらの色を作る。同じように言葉は使う人の人間全体を表す。 ・キーワードを提示する。 ・重文を使って、まとめさせる。	リライト教材 （→18ページ参照） 日中電子辞書 写真等は教科書等の図版を参照 原稿用紙



事例16

漢字の学習

対象	中学校2年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	日本生まれ。生後3か月ほどで中国へ帰国。中国で就学し、小学4年生を修了して渡日した。家庭では保護者とは中国語、妹とは中国語と日本語で話す。簡単な日常会話はほぼ話することができるが、複雑な内容になると理解が不十分である。保護者は日本語通訳が必要。	【話す】	3		
		【読む】	2		
		【書く】	2		
		【聴く】	4		



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す】 日常会話の中で連文を使ってわかりやすく話すことができる。 【読む】 日常よく使う語彙を増やし、物語のおおまかな内容を理解することができる。 【書く】 日常よく使う語彙を増やし、ある程度の長さの作文を書くことができる。 【聴く】 授業にある程度参加できる学習言語（語彙・表現）を習得する。集団での指示を理解することができる。	
	日本語	教科（国語）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 支援を得て、中学1年まで学習した漢字を読んで書く。 日本語能力試験N4（※）の問題を解く。 新出漢字を読んで書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 下学年の物語文を読んで、内容を大まかに理解する。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 日本語能力試験N3（※）の問題を解く。 生活に根ざした読解問題に取り組む。 漢字の読み書きについて練習する。 自分の思いを日本語で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年の説明文を読んで、内容を大まかに理解する。

指導による到達点

評価	【話す】 日常会話の中で連文を使うことができるようになった。
	【読む】 文節に気をつけて読むことができた。語彙が増えた。
	【書く】 文を長くつなげてしまい、接続が曖昧な状態も見られたが、ある程度の長さまでは書けるようになった。
	【聴く】 学習言語含め、語彙や表現を増やすことができた。

（※）日本語能力試験

→ 日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験で、「国際交流基金」と「日本国際教育支援協会」が運営している。N1、N2、N3、N4、N5の5つのレベルがあり、最もやさしいレベルがN5で、最も難しいレベルがN1。



指導例（概要）

1 教科・単元名

国語・漢字の学習

2 目標

日本と中国の漢字の違いに興味をもつ。習得した漢字を使う場面を知る。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①前回学習した漢字の確認を行う。	・場面を想像させる。	漢字プリント チェックシート 漢字カード（下例参照）
②日本と中国の漢字の違いを探す。（漢字の違いに興味を持つ）	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の簡体字と日本の漢字で似ていて異なる漢字カードを提示し、漢字ごとの違いを探す。 ・部首の形が異なる漢字カードを加えて提示してもよい。 （インターネット等を使い、その他の漢字を自分たちで探させてもよい。） ・中国と日本の漢字の違いを確認し、注意事項をおさえる。 ・どんな場面で使うか確認させる。 	
③漢字の読み方、熟語、使う場面等の話をきく。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードや写真、映像を見せて、漢字を使える場面をイメージしやすくする。 ・場面を変えて、集中力が途切れないようにする。 	漢字を使う場面の絵カードや写真、動画等
④漢字を書く。		
⑤学習する漢字のテスト		
⑥習った漢字を使って短文を作る。	・作りやすくそうしている場合は、絵カードや写真、映像を使って支援する。	

【中国と日本で似ていて異なる漢字カード（間違いやすい漢字）】

角	角	真	真	天	天	黒	黒
气	氣	边	辺	对	対	海	海
花	花	画	画	决	決	骨	骨

【中国と日本で部首の形が異なる漢字カード】

证	証	视	視	针	針	间	間
鳩	鳩	馆	館	终	終		



事例17

故郷

対象	中学校3年	第一言語	ベトナム語	DLAステージ	
背景	小学校5年3月に渡日。家庭では、ベトナム語で話す。ベトナム語で文章を読めるが、書くことはできない。日本語は、支援を得て教科書を読み、大意を理解することができる。既習語彙を使って短文は書けるが、テーマに沿った作文を書くことが課題。母親はほとんど日本語を話せない。	【話す】	3		
		【読む】	3		
		【書く】	2		
		【聴く】	3		



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す】 日々の様々な会話する場面で、日本語で積極的に参加することができる。 【読む】 原文を文節に区切ったものを読むことができる。 【書く】 身近なテーマに沿って複数の文章を書くことができる。 【聴く】 教員の話の内容の大筋と流れを理解することができる。	
	日本語	教科（国語）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 「書き言葉」としての熟語数を増やす。 多読し、おおまかな内容を把握する。 修辞法を学び、複文の短文を書く。 助詞を的確に使えるようになる。 小学校までの漢字が書け、中学校で習う漢字を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 原文を文節に区切ったものを読む。 教科書の内容を読み、登場人物の心情をおおまかに理解する。 俳句の基本的な作り方について知る。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 「理科」「社会科」の内容の長文を読み各教科関連語句や知識を得る。 接続詞を使って文型をつなぎ、まとまった内容の文章を書く。 身近なテーマに沿って複数の文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 『故郷』を学習する。作風を感じ、登場人物の運命について語り、人間と社会について考える。 古文についての基礎を復習する。 文学史についておおまかな内容を理解する。

指導例

指導による到達点

評価	【話す】 「書き言葉」の語彙が増えた。またそれを用いて短文を自分で考え、作れるようになった。まとまった内容をかなり自在に話せるようになった。
	【読む】 原文を文節に区切ったものが読めるようになった。
	【書く】 5～6文からなる文章を書けるようになった。
	【聴く】 教員の話の内容の大筋と流れが部分的に理解できるようになった。



指導例（概要）

1 教科・単元名

国語・「故郷」 ※中学3年生用国語教科書（光村図書出版、東京書籍、教育出版ほか）

2 目標

物語の内容を読み解き、登場人物の心境を理解する。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①故郷ベトナムの思い出の中の風景や一時帰国した時の気持ちについて話す。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の故郷について意欲的に話せるような雰囲気をつくる。 ベトナムのことを知らない人にもわかるように話せるよう、必要に応じて補助をする。 	
②「故郷」の冒頭から「私」が20年ぶりに故郷に帰った場面をリライト文で音読する。	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読みはリライト文にルビを振る。 	リライト教材 （→18ページ参照）
③わからない漢字の読みと言葉をノートに書き出し辞書で調べる。	<ul style="list-style-type: none"> 未習の語句は用例を5～6の例文で示す。 	国語辞典
④未習の語句で短文をつくる。		プリント
⑤主人公「私」が故郷に帰った時の心境を考え帰郷の理由を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> まず、口頭で言わせてみてノートに書きとらせる。 	
⑥教科書で原文を読む。		教科書

【アドバイス】リライト教材の作成と教科書の併用

児童生徒の日本語能力に合わせたリライト教材を使えば、教科書に書かれた大まかな内容を理解することができます。そのうえで、上の事例のように可能な場合は、ルビをふるなどした教科書の原文を読むことにもチャレンジさせてみましょう。教科書の原文に戻ってもう1度学習することで、学習内容を深めたり、日本語の理解が進んだりします。また、「友達と同じ教科書を読めた！」という達成感につながり、さらに意欲を高めることにつながります。

ただし、長い文章を読むことに抵抗が大きい場合などは、無理に読ませる必要はありません。当該児童生徒の日本語能力をきちんと把握しながら、徐々に教科書の原文に近づけ、いずれは教科書本文だけを使って学習できるようになることをめざしましょう。



事例18

月の起源を探る

対象	中学校3年	第一言語	ビサヤ語	DLAステージ	
背景	中学2年生の2月末に来日。編入当初はほとんど日本語を話せず、読み書きは全くできなかった。春休み中に体制を組み日本語指導を行ったことや保護者の協力などにより、3年生進級時にはひらがな、カタカナ等の読み書きの指導を終えた。英語が堪能。	【話す】	4		
		【読む】	3		
		【書く】	3		
		【聴く】	4		



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す】 仲間や周りとの関わりを通して、自らの気持ちを表現することができる。 【読む】 リライト教材やデリート教材等を活用し、文章内容を読みとることができる。 【書く】 小学校1年から6年までの漢字を書くことができる。 【聴く】 話の内容に関心もって聞き、再現することができる。	
	日本語	教科（国語）
前期	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やし、自分自身のことや身近な出来事について説明する。 基本的な文型を理解する。 様々な種類の簡単な文章を読み、その大意を理解する。 話し言葉と書き言葉の違いに注意し、既習の漢字を用いた文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> トピックごとにまとめた教材を活用し、漢字を習得する。 説明文を読み大意を理解する。 物語文を読んで、自分の考えや感想を話すことができるようになる。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことについての説明や、教科学習等で分からなかったことを質問する。 既習の文型を発展的に用いる。 様々な種類の文章を読み、国語辞典を活用し、その内容を理解する。 内容に合わせて文を構成したり、簡単な比喻等を用いたりして、表現を工夫した文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文の文章構成を理解し、段落ごとの内容が理解できるようになる。 物語文を読んで、自分の考えや感想を文章で表現できるようになる。 入試問題等で頻出する語句の意味を理解し、問題に対応できるようになる。



指導による到達点

評価	【話す】 仲間とのコミュニケーションがとれるようになり、積極的に話す場面が増えてきた。 【読む】 分からない言葉については国語辞典を活用し、文章の大意を理解できるようになってきた。 【書く】 小学校5年生の漢字まで習得することができた。 【聴く】 最後まで集中して話を聞き、要点を話すことができた。
----	--



指導例（概要）

1 教科・単元名

国語・「月の起源を探る」

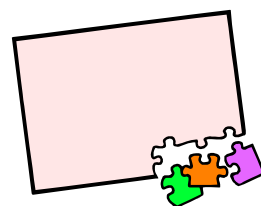
※中学3年生用国語教科書（光村図書出版）

2 目標

科学的なものの見方や研究方法を知り、それらについて自分の考えをもつ。
文脈の中での語句や図の使い方などを注意して読み、筆者の考え方について説明する。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①前時の学習をふり返る(なぜ月が特異な天体であるのかについて説明をする)。	・キーワードを示し、思い出させる。	
②学習する範囲の範読を聞き、その後、音読する。	・宿題の漢字の読み仮名を確認させる。	リライト教材 (→18ページ参照)
③話の内容について大まかに説明する。	・キーワードを使って話をする事ができているか確認する。	
④重要な語句をプリントに書き出し、意味を記入する。	・英語による補足をさせたり、国語辞典を活用させる。	学習プリント 国語辞典
⑤話の内容を、学習プリントに書く(プリントに書かれた指示にしたがって記入する)。	・月の起源に関する3つの古典的仮説(「分裂説」「共成長説」「捕獲説)」について、粘土を使って説明して、生徒がその内容を理解し書けるように支援する。	仮説を説明するための粘土
⑥理解した内容について説明をする。	・キーワードとなる言葉が使えているか、説明した内容が正しく伝わっているかを確認する。	



事例19

遠足に行こう

対象	小学校3年	第一言語	中国語	DLAステージ	
背景	日本生まれ。5歳ごろ家族とともに中国に帰国し、3年生9月に再来日。中国では小学校に就学せず、日本語もほとんど話す機会がなかった。家庭では日本語と中国語で話をする。簡単な日常会話ができるが、学習言語の習得に課題がある。			【話す】	3
				【読む】	3
				【書く】	2
				【聴く】	2



年間指導計画（概要）

指導目標	【話す】 日常の出来事について助詞の使い方に気をつけて話すことができる。 【読む】 4～5語の文で書かれた文章（物語、説明文）を読むことができる。 【書く】 学校生活に必要な語彙などを使って3～4語で文を書くことができる。 【聴く】 身近な内容の話を、最後まで聞くことができる。	
	日本語	特別活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> 長音・拗音・促音・撥音などを含む語句を読む・書く。 2～3語文を聞く・話す・書く。 物語、説明文など3～4語文で書かれた文章を読む。 日常の出来事を話す。 助詞、句読点を正しく使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団行動をする際のルールを知り、行事や活動に主体的に参加する。 行事や活動の日程や内容を知り、それに合わせた持ち物等の準備をする。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 文字を読み、書くことができる。 様子をあらわす言葉や季節を表す言葉を理解する。 3～4語文を聞く・書く。 4～5語文で書かれた文章を読む。 日常の出来事を助詞に気をつけて話す。 主語と述語、指示語、助詞、「 」を正しく使って書く。 敬語を正しく使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級内での係活動等について理解し、積極的に自分の役割を果たす。 学級、班の友達と協力して、与えられた課題をこなす。 活動や行事における自分の関わりをふりかえり、ふりかえりシートを書く。

指導例

指導による到達点

評価	【話す】 語彙が増え、出来事などを詳しく伝えられるようになった。 【読む】 ひらがな、カタカナ、1年配当漢字は正しく表記できた。2年配当漢字はほぼ正しく読むことができた。 【書く】 日常生活の言葉を使って3～4語文を書くことができるようになった。 【聴く】 身近な内容の話は、理解して聴くことができるようになった。
----	--



指導例（概要）

1 教科・単元名

特別活動・「遠足に行こう」

2 目標（特別活動）

遠足に安心して参加するための知識を持ち、準備に必要なことがらを知る。

遠足に進んで参加しようとする気持ちを持つ。

目標（日本語指導）

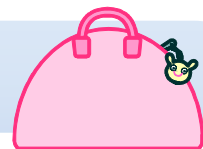
「～だから～がいきます。」「～は～に使います。」の表現が使える。

3 本時の展開

学習活動	留意点	準備物・教材・資料等
①遠足についての説明を聞く	・どんなことをするのか大まかに知らせる。	遠足のしおり
②目的地や日程について知る。	・遠足、しおり等の単語を確認させる。	
③海や川などの生き物について知っていることや好きな生き物について話す。	・「水族館」の写真や資料を参考にして、水族館のイメージを持たせる。 ・知っていることを話し、水族館のイメージを膨らませ、遠足への期待感を持たせる。	水族館外観の写真 パンフレット 海や淡水の生き物の絵や写真
④持ち物など準備について知る。 「～だから～がいきます。」「～は～に使います。」の表現を使って必要なものを確認する。	・持ち物の名前や用途を確認する。 ・リュックサックなど使ったことがないものは、できるだけ実物を用意する。 ・わからないことは、友だちや担任に尋ね、準備ができるようにさせる。 ・次時への期待感を持たせる。	リュックサック、敷物など 文カード「～だから～がいきます。」「～は～にかいきます。」
⑤次時の予告をする。		



コラム⑦ 学校行事と持ち物



運動会のように、日本以外の国ではあまり見られない学校行事について、帰国・渡日児童生徒やその保護者は、母語で書かれた文書を受け取っても、行事の内容を想像できない場合があります。また、「学校は学問を教えてもらうところ」という認識をもっている場合、学校行事に参加する意義が理解されにくいことがあります。そのような家庭に、行事のための持ち物を準備してもらう場合は、実物を見せたり図や写真で具体的に示し、用途を伝えると良いでしょう。

加えて、昼食として弁当を持参する習慣のない国もあり、弁当を作ることが大きな負担になる保護者もいます。このような習慣や価値観の違いを踏まえた支援をすることも大切です。



大阪府

教育委員会市町村教育室 小中学校課 平成28年3月発行
〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目 TEL 06(6941)0351(代表)